

4-530-735-**07** (1)

ワイヤレス
マイクロホンパッケージ

取扱説明書

UWP-D11/D12
UTX-B03
UTX-M03
UTX-P03
URX-P03

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告　電気製品は安全のための注意事項を守らないと、
火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の
取り扱いかたを示してあります。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**
製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、
いつでも見られるところに必ず保管してください。

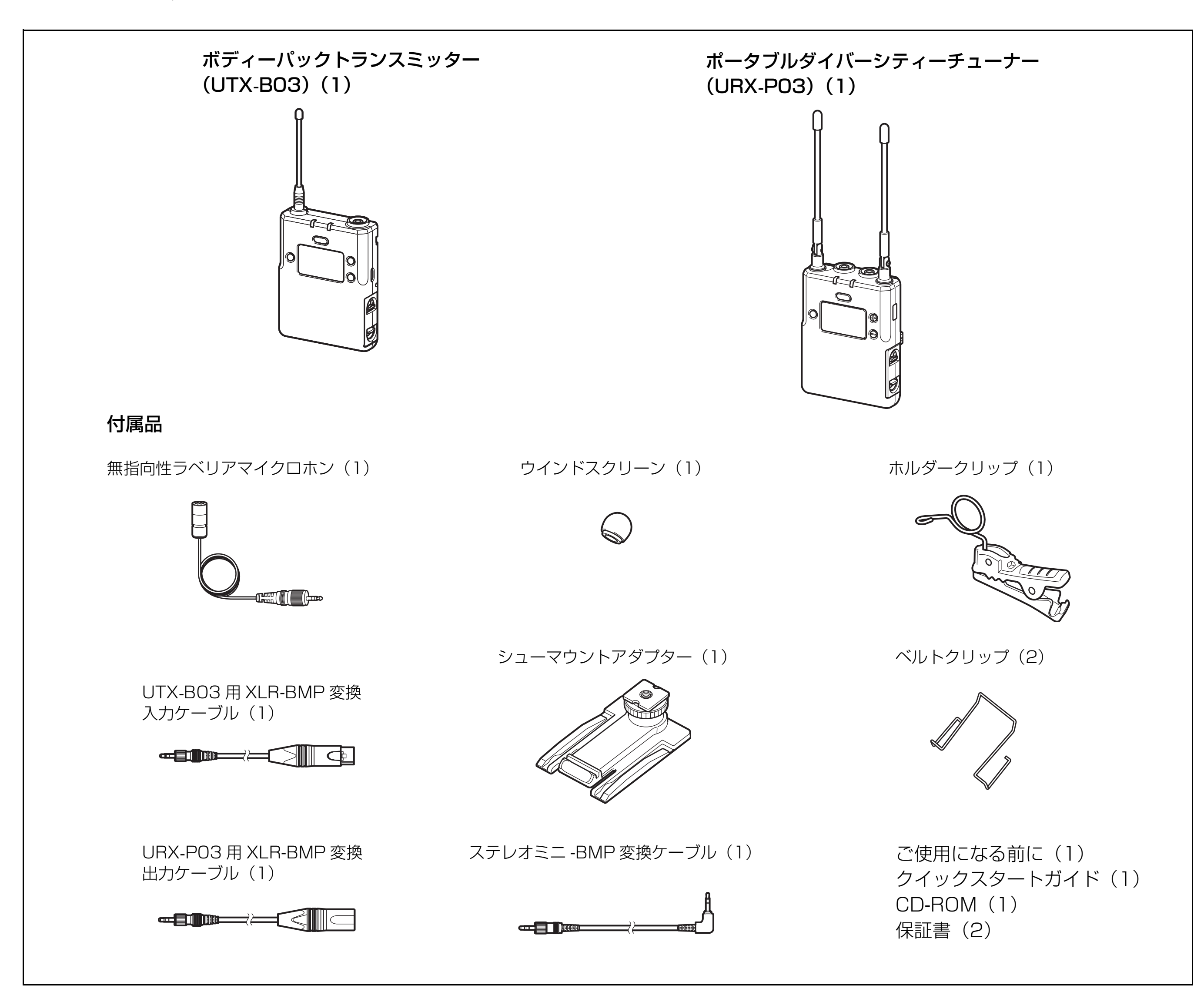
目次

商品の構成

この取扱説明書は、ワイヤレスマイクロホンパッケージ UWP-D11/D12 で共通です。各パッケージの商品構成は次のとおりです。

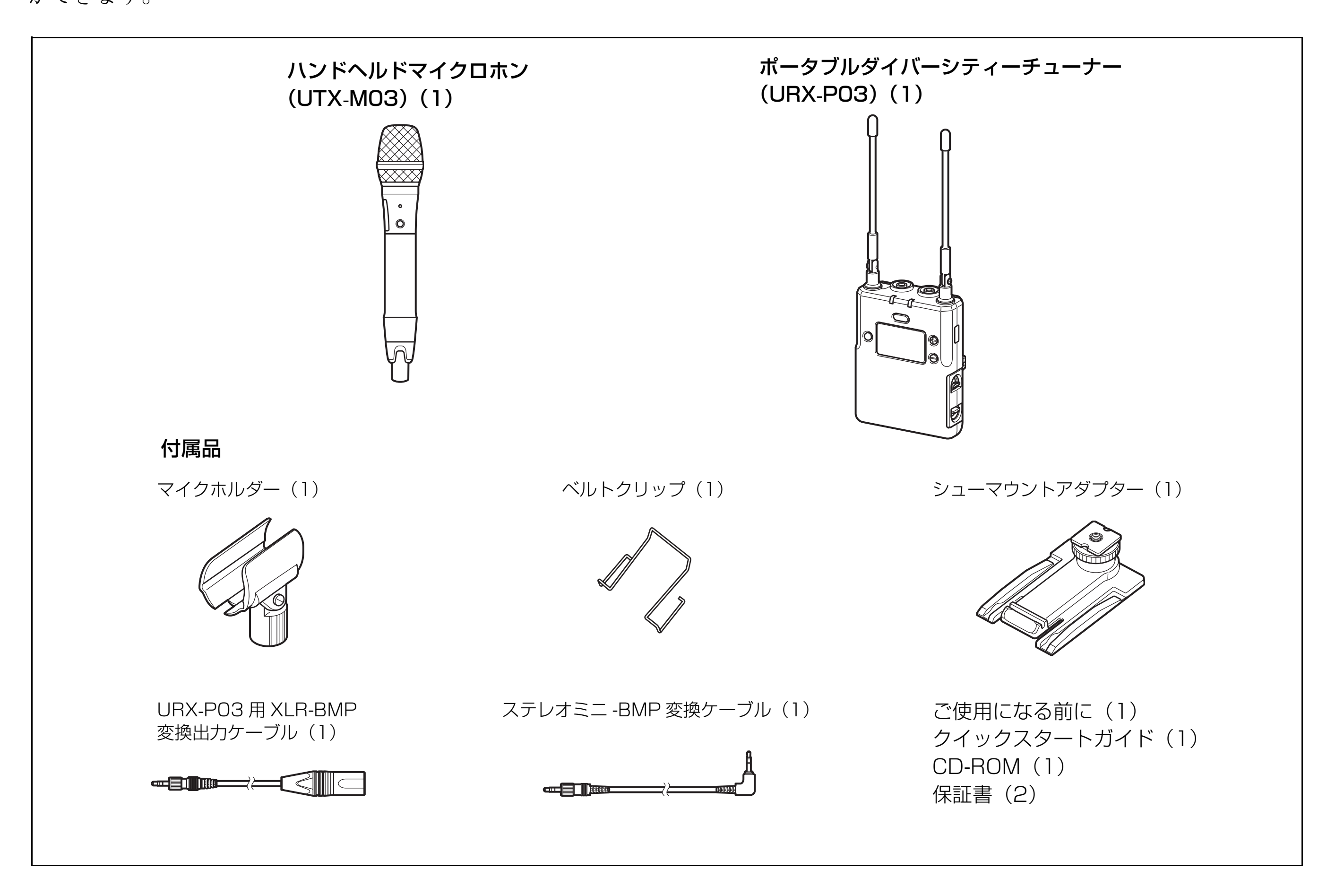
UWP-D11

ボディーパックトランスミッター（送信機：UTX-B03）とポータブルダイバーシティーチューナー（受信機：URX-P03）のセットです。小型カムコーダーとの組み合わせにより、ENG、EFP アプリケーションにおいて機動性のあるシステムを構築することができます。



UWP-D12

ハンドヘルドマイクロホン（送信機：UTX-M03）とポータブルダイバーシティーチューナー（受信機：URX-P03）のセットです。小型カムコーダーとの組み合わせにより、ENG、EFP アプリケーションにおいて機動性のあるシステムを構築することができます。



単売モデル

各パッケージに含まれる送信機および受信機を単独で販売しています。それぞれの商品構成は次のとおりです。

UTX-B03

- ボディーパックトランスミッター（UTX-B03）（1）
- 無指向性ラベリアマイクロホン（1）
- ウインドスクリーン（1）
- ホルダークリップ（1）
- UTX-B03 用 XLR-BMP 変換入力ケーブル（1）
- ベルトクリップ（1）
- ご使用になる前に（1）
- CD-ROM（1）
- 保証書（1）

UTX-M03

- ハンドヘルドマイクロホン（UTX-M03）（1）
- マイクホルダー（1）
- ご使用になる前に（1）
- CD-ROM（1）
- 保証書（1）

UTX-P03

- プラグオントランスミッター（UTX-P03）（1）
- ソフトケース（1）
- ご使用になる前に（1）
- CD-ROM（1）
- 保証書（1）

URX-P03

- ポータブルダイバーシティーチューナー（URX-P03）（1）
- シューマウントアダプター（1）
- ベルトクリップ（1）
- URX-P03 用 XLR-BMP 変換出力ケーブル（1）
- ステレオミニ -BMP 変換ケーブル（1）
- ご使用になる前に（1）
- CD-ROM（1）
- 保証書（1）

特長

ワイヤレスマイクロホンパッケージ UWP-D11/D12（UWP-D シリーズ）は、送信機（ボディーパックトランスミッター（UTX-B03）またはハンドヘルドマイクロホン（UTX-M03））と受信機（ポータブルダイバーシティーチューナー（URX-P03））の組み合わせです。小型カムコーダーやレンズ交換式デジタルカメラなどと組み合わせることで、ENG（Electronic News Gathering）や EFP（Electronic Field Production）、スポーツイベント、ウェディングなど、さまざまな用途に使用できます。
DSP を搭載し、デジタルコンパンダー処理によって高音質な伝送を実現。また、モードを切り換えることにより、従来のソニー製アナログワイヤレスマイクロホンシステム（UWP シリーズ、WRT シリーズ、WRR シリーズ、WRU シリーズ）と組み合わせて使用することができます。
さらに、受信機で設定した周波数およびコンパンダーモードを送信機へ送ることができる、赤外線通信機能を搭載。受信機のクリアチャンネルスキャン機能との組み合わせにより、チャンネル設定の時間を大幅に短縮します。

各パッケージの特長は次のとおりです。

UWP-D11

ボディーパックトランスミッター（送信機：UTX-B03）

水晶制御 PLL シンセサイザー方式を採用した小型かつ軽量なトランスミッターです。ミューティング機能を備え、BMP タイプのマイクロホン入力端子を装備しています。送信出力は、High/Low の切り換えが可能です。また、MIC/LINE 切り換え機能を搭載し、さまざまな入力レベルに対応します。

ポータブルダイバーシティーチューナー（受信機：URX-P03）

ドロップアウトの少ないトゥルーダイバーシティー方式を採用し、角度可変型アンテナを装備しています。さらに小型カムコーダー（HXR-NX3 など）に取り付けるためのアダプターを付属しています。また、空きチャンネルを自動的に検索するクリアチャンネルスキャン機能を搭載しています。

UWP-D12

ハンドヘルドマイクロホン（送信機：UTX-M03）

堅牢な金属ボディのマイクロホンです。ミューティング機能を備え、アッテネーターの調整機能により幅広い音声入力レベルに対応します。
マイクロホンカプセルを交換することで、さまざまな用途に使用することができます。アンテナは内蔵型です。

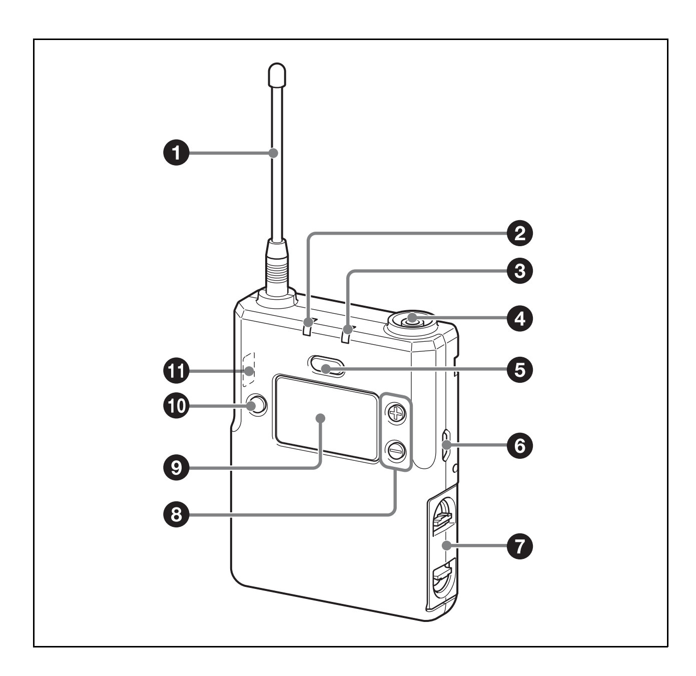
* マイクロホンユニットの取り付け部寸法：直径 31.3 mm、ピッチ 1.0 mm

ポータブルダイバーシティーチューナー（受信機：URX-P03）

ドロップアウトの少ないトゥルーダイバーシティー方式を採用し、角度可変型アンテナを装備しています。さらに小型カムコーダー（HXR-NX3 など）に取り付けるためのアダプターを付属しています。また、空きチャンネルを自動的に検索するクリアチャンネルスキャン機能を搭載しています。

各部の名称と働き

ボディーパックトランスミッター（送信機：UTX-B03）



❶ アンテナ

❷ POWER（電源）インジケーター

電池残量、または充電状態を表示します。

インジケーターの表示	状態
点灯（緑）	電池残量が充分
点滅（緑）	電池がほとんど消耗している
点灯（橙）	充電中（ニッケル水素充電池を装着し、本機が電源 OFF の場合のみ）
点滅（赤）	充電不可（ニッケル水素充電池以外の電池、または劣化したニッケル水素電池が入っている場合） **ご注意** USB ケーブルを抜き、電池を交換してください。
消灯	電源 OFF または充電完了

❸ AUDIO（音声入力レベル）インジケーター

音声入力のレベルによって、以下のように点灯／消灯します。

点灯（赤）：音声レベルが高すぎます。音声にひずみが生じる場合は、アッテネーターレベルを調整して入力レベルを下げてください（25 ページ）。

点灯（緑）：適正な音声入力レベルです。

消灯：音声入力がないか、レベルが低すぎます。

点滅（橙）：音声がミューティング（消音）されています。

❹ 音声入力端子（BMP タイプ）

付属のラベリアマイクロホンを接続します。または、付属の UTX-B03 用 XLR-BMP 変換入力ケーブルを使用して、オーディオミキサーなどのライン出力端子や、外部電源を必要としないマイクロホンを接続します。

ご注意

- オーディオ入力レベルを「MIC」に設定して使用するときには、音声入力端子にはラベリアマイクロホンの電源用に電圧がかかります。また、音声入力端子は特殊な配線になっています。付属のラベリアマイクロホン以外の機器を接続する場合は、必ず UTX-B03 用 XLR-BMP 変換入力ケーブル（UWP-D11 にのみ付属）をご使用ください。
- 付属以外のラベリアマイクロホンを接続した場合、充分な性能を得られないことがあります。

❺ POWER/MUTING（電源／消音）ボタン

本機の電源を ON/OFF します。また、ミューティング（消音）機能の ON/OFF もこのボタンで操作します。

機能	操作
電源 ON	ボタンを 1 秒以上長押し
電源 OFF	表示が消えるまでボタンを長押し
ミューティング ON	ボタンを押す
ミューティング OFF	

❻ USB 端子（マイクロ B タイプ）

市販の USB ポータブル電源を接続します。

本機の電源が ON のときに USB ポータブル電源を接続すると、自動的に USB ポータブル電源から電源を供給して動作します。本機の電源が OFF で、ニッケル水素充電池を装着しているときに USB ポータブル電源を接続すると、USB ポータブル電源からニッケル水素充電池を充電します。

ご注意

アルカリ乾電池、リチウム電池を充電することはできません。

❼ 電池ホルダー

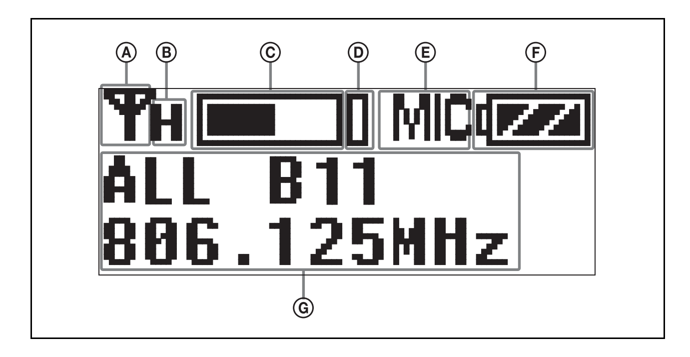
単 3 形電池（アルカリ乾電池、ニッケル水素充電池、リチウム電池）2 本を入れます。

◆ 電池の入れかたについて詳しくは、「電源」（12 ページ）をご覧ください。

❽ ＋または－ボタン

ディスプレイに表示された機能や値を選択します。

❾ ディスプレイ部



Ⓐ RF 送信表示

現在の送信状態を表示します。

- Ψ ：送信しています。
- − ：RF 送信を停止しています。

Ⓑ RF 送信電力表示

現在の送信電力設定を表示します。この設定は RF 送信電力設定機能で変更できます。

◆ RF 送信電力設定機能について詳しくは、「送信出力のレベルを設定する（RF POWER）」（25 ページ）をご覧ください。

Ⓒ オーディオ入力レベルメーター

音声入力レベルを表示します。

Ⓓ ピークインジケーター

オーディオ信号がひずみはじめる 3 dB 前で点灯し、過大入力を警告します。

Ⓔ 入力レベル表示

入力レベル状態を表示します。

MIC：マイク入力です。

LINE：ライン入力です。

Ⓕ 電池残量表示

電池の残量を表示します。USB 端子から電源供給されている場合は、「EXT」と表示されます。

◆ 詳しくは、「電池残量の表示」（13 ページ）をご覧ください。

Ⓖ メニュー表示部

各種機能を表示します。表示を切り換えるには、＋または－ボタンを押します。

◆ 詳しくは、「設定メニュー」（20 ページ）をご覧ください。

❿ SET（セット）ボタン

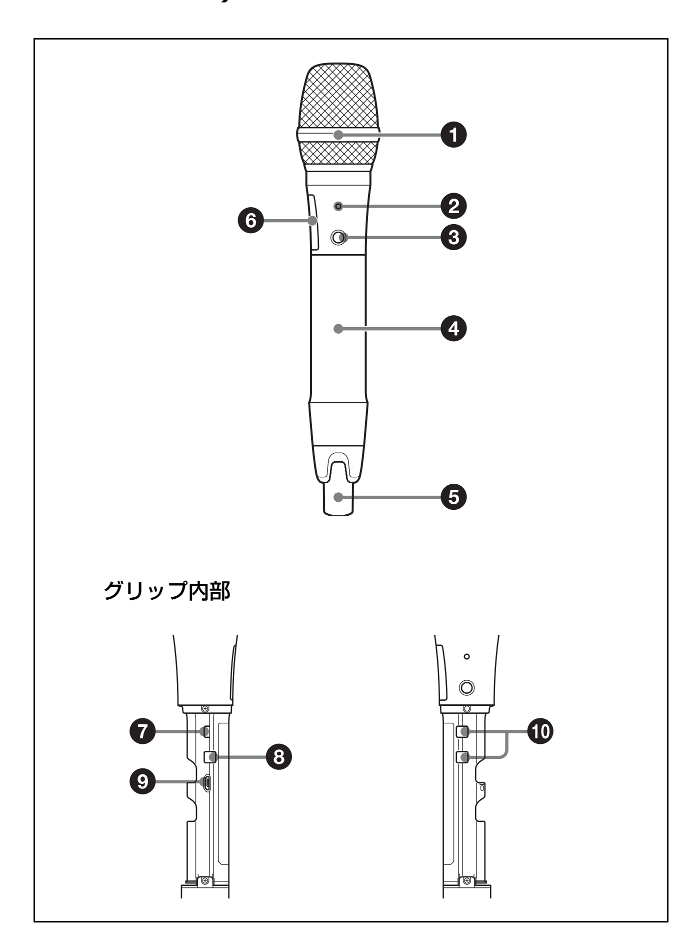
ディスプレイに表示された機能を調整したり、調整した値を決定したりします。

SET ボタンを押しながら電源を ON にすると、電波を送信しない状態で電源 ON になります（送信停止モード）。

⓫ 赤外線受光部

受信機で設定した周波数およびコンパンダーモードを受信します。

ハンドヘルドマイクロホン（送信機：UTX-M03）



❶ マイクロホンユニット

標準装備のマイクロホンユニットのほか、直径 31.3 mm、ピッチ 1.0 mm の取り付け寸法のマイクロホンユニットを取り付けることができます。

◆ マイクロホンユニットの取り付けおよび取り外し方法について詳しくは、「マイクロホンユニットを交換する」（15 ページ）をご覧ください。

❷ POWER（電源）インジケーター

電池残量、充電状態、および音声のミューティング（消音）状態を表示します。

インジケーターの表示	状態
点灯（緑）	電池残量が充分
点滅（緑）	電池がほとんど消耗している
点灯（橙）	充電中（ニッケル水素充電池を装着し、本機が電源 OFF の場合のみ）
点滅（赤）	充電不可（ニッケル水素充電池以外の電池、または劣化したニッケル水素電池が入っている場合） **ご注意** USB ケーブルを抜き、電池を交換してください。
消灯	電源 OFF または充電完了
点滅（橙）	音声をミューティング（消音）中

❸ POWER/MUTING（電源／消音）ボタン

本機の電源を ON/OFF します。また、ミューティング（消音）機能の ON/OFF もこのボタンで操作します。

機能	操作
電源 ON	ボタンを 1 秒以上長押し
電源 OFF	表示が消えるまでボタンを長押し
ミューティング ON	ボタンを押す
ミューティング OFF	

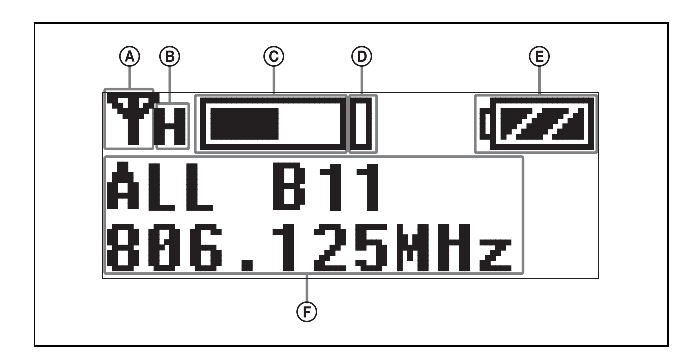
❹ 電池ホルダー

単 3 形電池（アルカリ乾電池、ニッケル水素充電池、リチウム電池）2 本を入れます。

◆ 電池の入れかたについて詳しくは、「電源」（12 ページ）をご覧ください。

❺ アンテナ部

❻ ディスプレイ部



Ⓐ RF 送信表示

現在の送信状態を表示します。

- ：送信しています。
- －　：RF 送信を停止しています。

Ⓑ RF 送信電力表示

現在の送信電力設定を表示します。この設定は RF 送信電力設定機能で変更できます。

◆ RF 送信電力設定機能について詳しくは、「送信出力のレベルを設定する（RF POWER）」（25 ページ）をご覧ください。

Ⓒ オーディオ入力レベルメーター

音声入力レベルを表示します。

Ⓓ ピークインジケーター

オーディオ信号がひずみはじめる 3 dB 前で点灯し、過大入力を警告します。

Ⓔ 電池残量表示

電池の残量を表示します。

◆ 詳しくは、「電池残量の表示」（13 ページ）をご覧ください。

Ⓕ メニュー表示部

各種機能を表示します。表示を切り換えるには、＋または－ボタンを押します。

◆ 詳しくは、「設定メニュー」（20 ページ）をご覧ください。

❼ 赤外線受光部

受信機で設定した周波数およびコンパンダーモードを受信します。

❽ SET（セット）ボタン

ディスプレイに表示された機能を調整したり、調整した値を決定したりします。
SET ボタンを押しながら電源を ON にすると、電波を送信しない状態で電源 ON になります（送信停止モード）。

❾ USB 端子（マイクロ B タイプ）

市販の USB ポータブル電源を接続します。
本機の電源が OFF で、ニッケル水素充電池を装着しているときに USB ポータブル電源を接続すると、USB ポータブル電源からニッケル水素充電池を充電します。

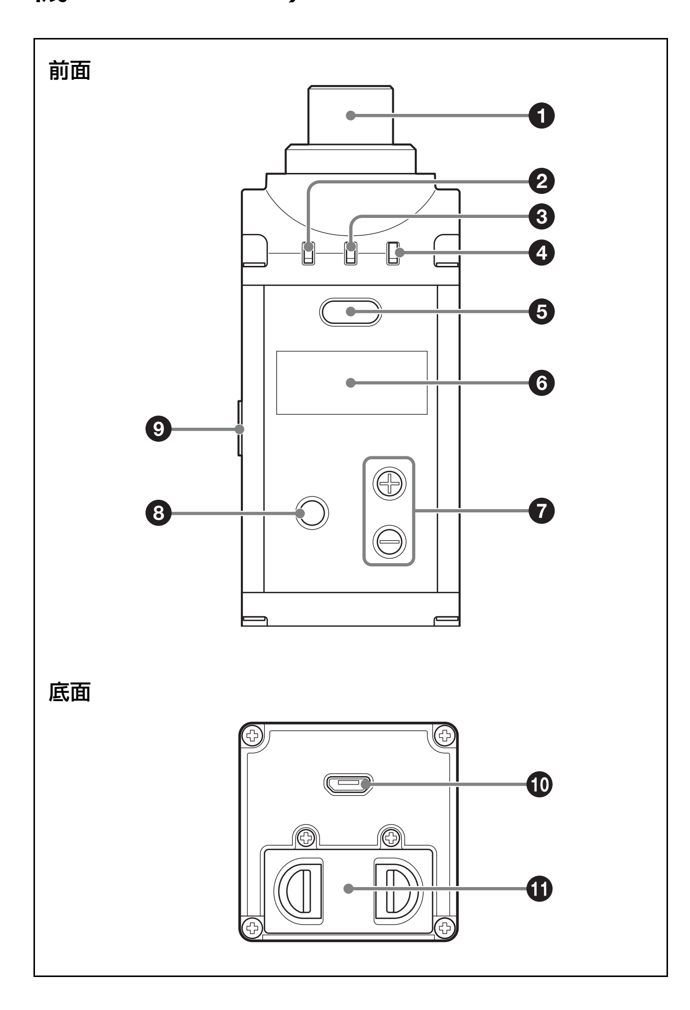
ご注意

アルカリ乾電池、リチウム電池を充電することはできません。また、USB ポータブル電源から給電することはできません。

❿ ＋または－ボタン

ディスプレイに表示された機能や値を選択します。

プラグオントランスミッター（送信機：UTX-P03）



❶ 音声入力端子（XLR タイプ）
マイクロホン、または、オーディオミキサーなどのライン出力端子を接続します。

❷ +48V（+48 V 電源）インジケーター
入力レベルが MIC 入力に設定されていて、接続されているマイクロホンに電源を供給しているときに点灯します。

❸ POWER（電源）インジケーター
電池残量、または充電状態を表示します。

インジケーターの表示	状態
点灯（緑）	電池残量が充分
点滅（緑）	電池がほとんど消耗している
点灯（橙）	充電中（ニッケル水素充電池を装着し、本機が電源 OFF の場合のみ）
点滅（赤）	充電不可（ニッケル水素充電池以外の電池、または劣化したニッケル水素電池が入っている場合） **ご注意** USB ケーブルを抜き、電池を交換してください。
消灯	電源 OFF または充電完了

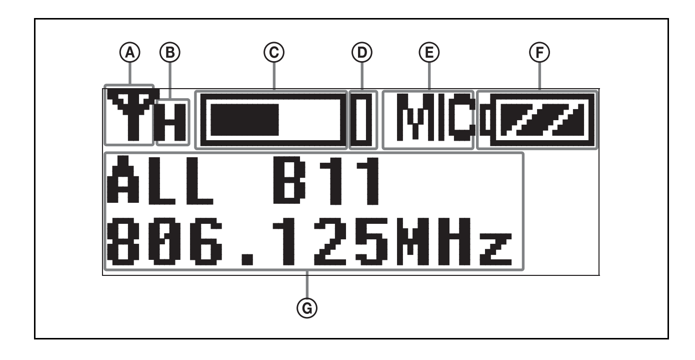
❹ AUDIO（音声入力レベル）インジケーター
音声入力のレベルによって、以下のように点灯／消灯します。

点灯（赤）：音声レベルが高すぎます。音声にひずみが生じる場合は、アッテネーターレベルを調整して入力レベルを下げてください（25 ページ）。
点灯（緑）：適正な音声入力レベルです。
消灯：音声入力がないか、レベルが低すぎます。
点滅（橙）：音声がミューティング（消音）されています。

❺ POWER/MUTING（電源／消音）ボタン
本機の電源を ON/OFF します。また、ミューティング（消音）機能の ON/OFF もこのボタンで操作します。

機能	操作
電源 ON	ボタンを 1 秒以上長押し
電源 OFF	表示が消えるまでボタンを長押し
ミューティング ON	ボタンを押す
ミューティング OFF	

❻ ディスプレイ部



Ⓐ RF 送信表示
現在の送信状態を表示します。

Ψ：送信しています。
–：RF 送信を停止しています。

Ⓑ RF 送信電力表示
現在の送信電力設定を表示します。この設定は RF 送信電力設定機能で変更できます。

◆ RF 送信電力設定機能について詳しくは、「送信出力のレベルを設定する（RF POWER）」（25 ページ）をご覧ください。

Ⓒ オーディオ入力レベルメーター
音声入力レベルを表示します。

Ⓓ ピークインジケーター
オーディオ信号がひずみはじめる 3 dB 前で点灯し、過大入力を警告します。

Ⓔ 入力レベル表示
入力レベル状態を表示します。

MIC：マイク入力です。
LINE：ライン入力です。

Ⓕ 電池残量表示

電池の残量を表示します。USB 端子から電源供給されている場合は、「EXT」と表示されます。

◆ 詳しくは、「電池残量の表示」（13 ページ）をご覧ください。

Ⓖ メニュー表示部

各種機能を表示します。表示を切り換えるには、＋または－ボタンを押します。

◆ 詳しくは、「設定メニュー」（20 ページ）をご覧ください。

❼ ＋または－ボタン

ディスプレイに表示された機能や値を選択します。

❽ SET（セット）ボタン

ディスプレイに表示された機能を調整したり、調整した値を決定したりします。
SET ボタンを押しながら電源を ON にすると、電波を送信しない状態で電源 ON になります（送信停止モード）。

❾ 赤外線受光部

受信機で設定した周波数およびコンパンダーモードを受信します。

❿ USB 端子（マイクロ B タイプ）

市販の USB ポータブル電源を接続します。
本機の電源が ON のときに USB ポータブル電源を接続すると、自動的に USB ポータブル電源から電源を供給して動作します。本機の電源が OFF で、ニッケル水素充電池を装着しているときに USB ポータブル電源を接続すると、USB ポータブル電源からニッケル水素充電池を充電します。

ご注意

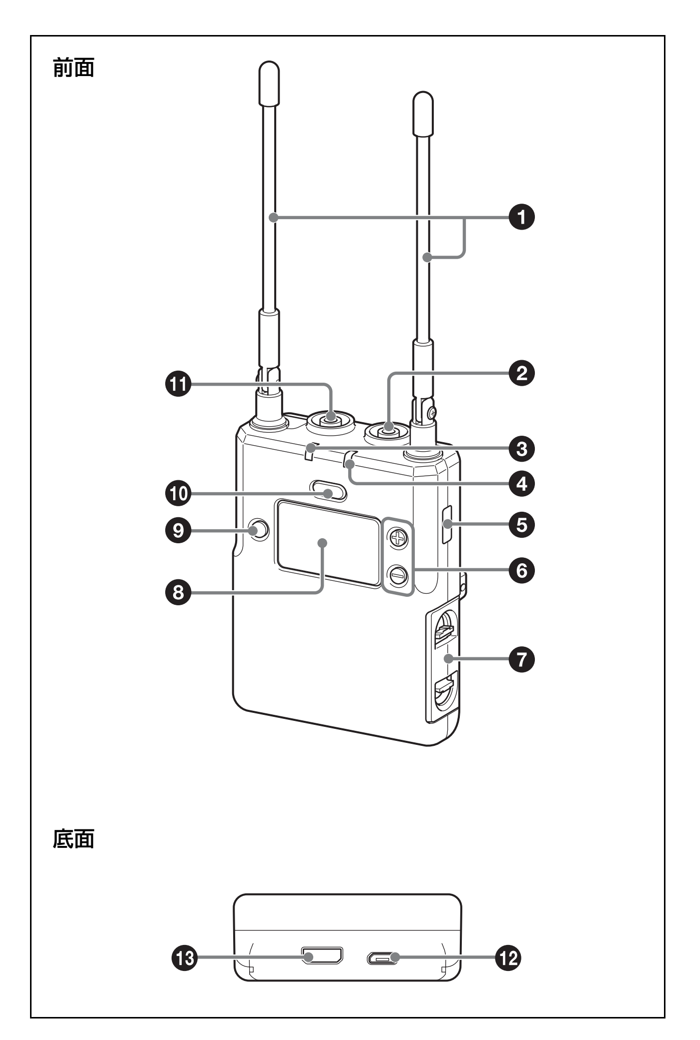
アルカリ乾電池、リチウム電池を充電することはできません。

⓫ 電池ホルダー

単 3 形電池（アルカリ乾電池、ニッケル水素充電池、リチウム電池）2 本を入れます。

◆ 電池の入れかたについて詳しくは、「電源」（12 ページ）をご覧ください。

ポータブルダイバーシティーチューナー（受信機：URX-P03）



❶ アンテナ

❷ PHONES（モニター）端子（Φ3.5 mm ステレオミニジャック）

この端子にヘッドホンを接続して、音声出力をモニターします。

ご注意

モノラルミニジャックのヘッドホンをこの端子に接続しないでください。ヘッドホン出力がショートし、音声がひずみます。

❸ POWER（電源）インジケーター

電池残量、または充電状態を表示します。

インジケーターの表示	状態
点灯（緑）	電池残量が充分
点滅（緑）	電池がほとんど消耗している
点灯（橙）	充電中（ニッケル水素充電池を装着し、本機が電源 OFF の場合のみ）

インジケーターの表示	状態
点滅（赤）	充電不可（ニッケル水素充電池以外の電池、または劣化したニッケル水素電池が入っている場合） **ご注意** USB ケーブルを抜き、電池を交換してください。
消灯	電源 OFF または充電完了

❹ RF（高周波入力）インジケーター

入力された高周波入力レベルによって、次のように点灯します。

点灯（緑）：入力レベルは 25 dBμ 以上
点灯（赤）：入力レベルは 15 ～ 25 dBμ
消灯：入力レベルは 15 dBμ 以下

＊ 0 dBμ ＝ 1 μV_{EMF}

❺ 赤外線送信ポート

設定した周波数およびコンパンダーモードを送信機に送信するためのポートです。

❻ ＋または－ボタン

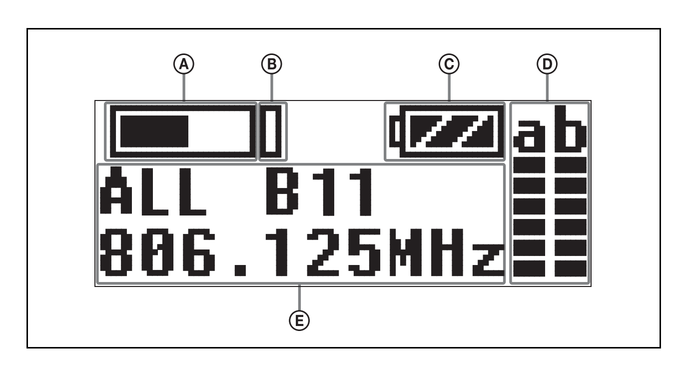
ディスプレイに表示された機能や値を選択します。

❼ 電池ホルダー

単 3 形電池（アルカリ乾電池、ニッケル水素充電池、リチウム電池）2 本を入れます。

◆ 電池の入れかたについて詳しくは、「電源」（12 ページ）をご覧ください。

❽ ディスプレイ部



Ⓐ オーディオ入力レベルメーター

音声入力レベルを表示します。

Ⓑ ピークインジケーター

オーディオ信号がひずみはじめる 3 dB 前で点灯し、過大入力を警告します。

Ⓒ 電池残量表示

電池の残量を表示します。USB 端子から電源供給されている場合は、「EXT」と表示されます。SMAD-P3（別売）から電源供給されている場合は「MI」と表示されます。

◆ 詳しくは、「電池残量の表示」（13 ページ）をご覧ください。

Ⓓ RF レベル（受信レベル）インジケーター

現在の受信レベルを表示します。

Ⓔ メニュー表示部

各種機能を表示します。表示を切り換えるには、＋または－ボタンを押します。

◆ 詳しくは、「設定メニュー」（20 ページ）をご覧ください。

❾ SET（セット）ボタン

ディスプレイに表示された機能を調整したり、調整した値を決定したりします。
SET ボタンを押しながら電源を ON にすると、電波を送信しない状態で電源 ON になります（送信停止モード）。

❿ POWER（電源）ボタン

本機の電源を ON/OFF します。

機能	操作
電源 ON	ボタンを 1 秒以上長押し
電源 OFF	表示が消えるまでボタンを長押し

⓫ OUTPUT（音声出力）端子（Φ3.5 mm ステレオミニジャック）

付属の URX-P03 用 XLR-BMP 変換出力ケーブルまたはステレオミニ -BMP 変換ケーブルを接続し、カムコーダーまたはミキサー、アンプなどのマイクロホン入力端子に接続します。接続する機器のマイクロホン入力端子がステレオミニジャックの場合は、ストレート（BMP）プラグをチューナーに、L 型（ステレオミニ）プラグを相手の機器のマイクロホン入力端子に接続してください。

ご注意

マイクロホン用外部電源などの電圧を加えないでください。故障の原因になります。

⓬ USB 端子（マイクロ B タイプ）

市販の USB ポータブル電源を接続します。
本機の電源が ON のときは、USB ポータブル電源から電源を供給して動作します。本機の電源が OFF で、ニッケル水素充電池を装着している状態のときは、USB ポータブル電源からニッケル水素充電池を充電します。

ご注意

アルカリ乾電池、リチウム電池を充電することはできません。

⓭ 外部接続用端子

外部アクセサリーとの接続に使用します。

電源

ここでは各機器の電源について、またニッケル水素充電池の充電について説明しています。

ボディーパックトランスミッター（UTX-B03）およびプラグオントランスミッター（UTX-P03）

単3形電池2本（アルカリ乾電池、ニッケル水素充電池、リチウム電池）または USB 端子からの電源供給で動作します。単3形電池と USB 端子から同時に電源供給されている場合、USB 端子からの電源供給が優先されます。各機器の電池の入れかたと電池の残量表示について、また USB 端子からの電源供給について下記の項目で説明しています。

ハンドヘルドマイクロホン（UTX-M03）

単3形電池2本（アルカリ乾電池、ニッケル水素充電池、リチウム電池）で動作します。電池の入れかたと電池の残量表示について、下記の項目で説明しています。

ポータブルダイバーシティーチューナー（URX-P03）

単3形電池2本（アルカリ乾電池、ニッケル水素充電池、リチウム電池）、USB 端子からの電源供給、または外部接続用端子からの電源供給で動作します。単3形電池からと、USB 端子または外部接続用端子から同時に電源供給されている場合は、優先的に使用する電源を PWR SOURCE（外部電源選択）機能で設定することができます。工場出荷時は、本体に取り付けた単3形電池を優先的に使用するように設定されています。電池の入れかたと電池の残量表示について、また USB 端子からの電源供給について下記の項目で説明しています。

◆ PWR SOURCE 機能の設定について詳しくは、「優先的に使用する電源を選択する（PWR SOURCE）」（22 ページ）をご覧ください。

ご注意

マンガン乾電池を使用すると、充分な性能が得られませんので使用しないでください。

電池を入れる

ご注意

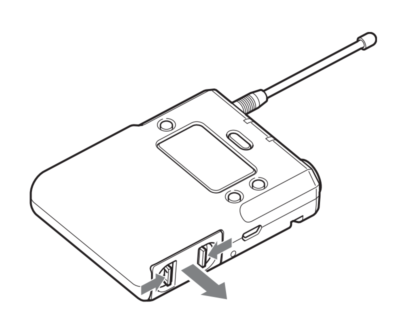
- 電池は必ず同じ種類の電池を使用してください。違う種類の電池や残量の異なる電池を組み合わせて使用しないでください。
- 使用中に電池の交換を行うと、大きな雑音が発生します。電池の交換は、必ず電源を切ってから行ってください。

ボディーパックトランスミッター（UTX-B03）／プラグオントランスミッター（UTX-P03）／ポータブルダイバーシティーチューナー（URX-P03）

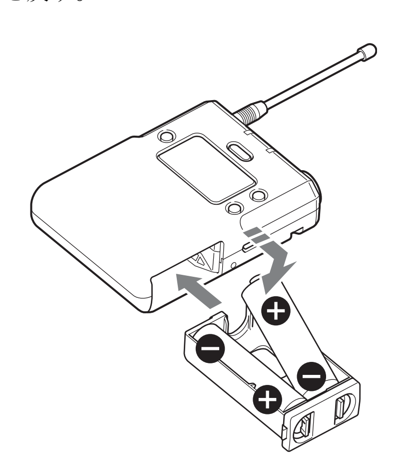
下記手順はボディーパックトランスミッター（UTX-B03）のイラストを使って説明していますが、電池の入れかたはプラグオントランスミッター（UTX-P03）およびポータブルダイバーシティーチューナー（URX-P03）も同様です。

1 POWER/MUTING（電源／消音）ボタンを長押しして、電源を切る。

2 2つの取っ手をつまんで同時に中央に寄せながら、電池ホルダーを引き出す。



3 新しい単3形電池2本の⊕と⊖を確認して入れ、電池ホルダーを戻す。

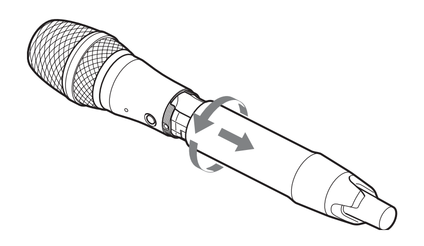


電池ホルダーが本体にしっかりロックされていることを確認してください。

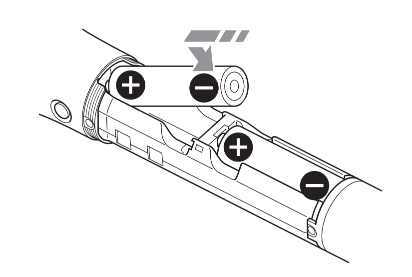
ハンドヘルドマイクロホン（UTX-M03）

1 POWER/MUTING（電源／消音）ボタンを長押しして、電源を切る。

2 グリップを矢印の方向に回して引き下げ、電池ホルダーが見える状態にする。



3 新しい単３形電池２本の ⊕ と ⊖ を確認して入れる。



4 グリップを閉じ、手順 **2** と逆方向に回して固定する。

電池残量の表示

POWER ボタンを１秒以上長押しして ON にすると、ディスプレイ部に本機の電池残量が表示されます。
下記の表の５のように表示が点滅しはじめたら、直ちに電池を２本とも新しいものと交換してください。新しいアルカリ乾電池を使用する場合は、記載されている使用推奨期限を確認のうえ使用してください。

	電池残量表示	電池の状態
1	点灯	良好
2	点灯	残量 70% 以下
3	点灯	残量 40%以下
4	点灯	残量 20%以下
5	点滅	ほとんど消耗している

ご注意

- BATTERY 機能で TYPE1 を選択した場合、新品のソニーアルカリ単３形乾電池を基準に電池の残量表示をします。その他の種類の電池や他社製の乾電池、新しくない乾電池などでは正しく残量表示ができないことがあります。アルカリ単３形乾電池以外の電池をご使用の場合には、BATTERY 機能で電池の種類を選択してください。
- 長時間続けてお使いになるときは、新しい乾電池と交換することをおすすめします。
- 電源を切った状態でも電池は少しずつ消費していきます。本機を長期間使わないときは、電池を取り出してください。

◆ BATTERY 機能の設定について詳しくは、「電池の種類を設定する（BATTERY）」（22 ページ）をご覧ください。

電池についてのご注意

電池の使い方を誤ると、液漏れや破裂のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。
- ⊕ と ⊖ の向きを正しく入れてください。
- 電池を交換するときには、必ず２本とも新しい電池と交換してください。
- 新しい電池と使用した電池、または種類の違う電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池は充電できません。
- 本機を長時間使わないときは、電池を取り出しておいてください。万一、液漏れが起こったときは、ソニーのサービス窓口にお持ちください。

USB 端子から電源供給する

送信機（UTX-B03/P03）、受信機（URX-P03）は、USB 端子に市販の USB 出力タイプの AC アダプターやポータブル電源を接続して動作させることができます。
USB 出力タイプの AC アダプターやポータブル電源を接続して給電する場合は、以下の条件のものを使用してください。
- 出力端子形状：USB マイクロ B タイプ
- 定格電圧：5 V
- 出力電流：200 mA 以上

USB 端子から電源が供給されている場合は、ディスプレイ部に「EXT」アイコンが表示されます。

ご注意

- ハンドヘルドマイクロホン UTX-M03 は、USB 端子から電源供給することはできません。
- 接続する AC アダプターやポータブル電源によっては、音声にノイズが発生することがあります。その場合は、本機やラベリアマイクロホンを AC アダプターやポータブル電源から離すなど、位置を変更することでノイズが軽減されます。

ニッケル水素充電池を充電する

送信機（UTX-B03/M03/P03）、受信機（URX-P03）に装着したニッケル水素充電池を充電することができます。
ニッケル水素充電池を充電するときは、本機の電源をOFFにして、USB端子に市販のUSB出力タイプのACアダプターやポータブル電源を接続します。
充電中はPOWERインジケーターが橙色に点灯します。充電が完了すると、POWERインジケーターが消灯します。
USB出力タイプのACアダプターやポータブル電源を接続して充電する場合は、以下の条件のものを使用してください。

- 出力端子形状：USBマイクロBタイプ
- 定格電圧：5 V
- 出力電流：1 A以上

ご注意

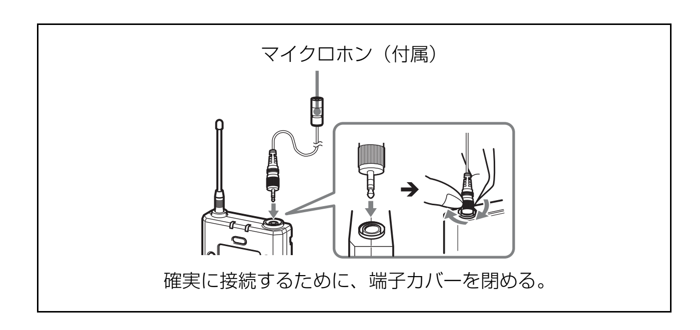
- 充電のために接続するACアダプターやポータブル電源、コンピューターによっては、充電できないことがあります。
- 送信機または受信機の電源がONになっている場合は、ニッケル水素充電池は充電されません。

付属品の取り付け

ここでは各機器への付属品の取り付けかたについて説明しています。

ボディーパックトランスミッター（UTX-B03）への付属品取り付け

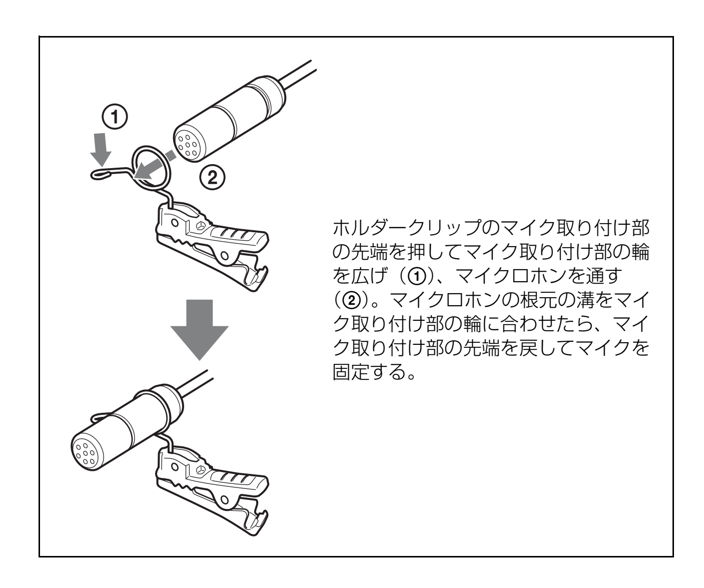
マイクロホンを接続する



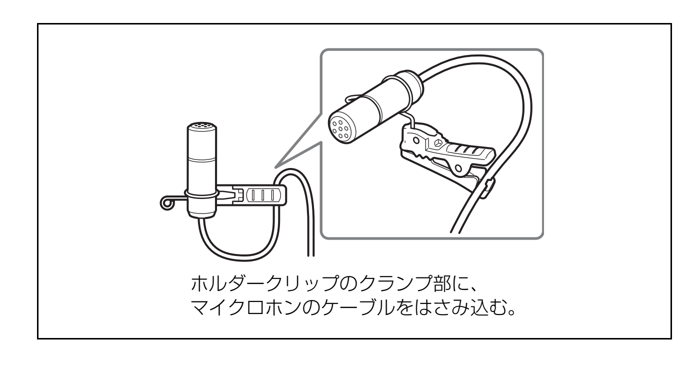
ご注意

マイクロホンの接続／取り外しは、トランスミッターの電源を切ってから行ってください。

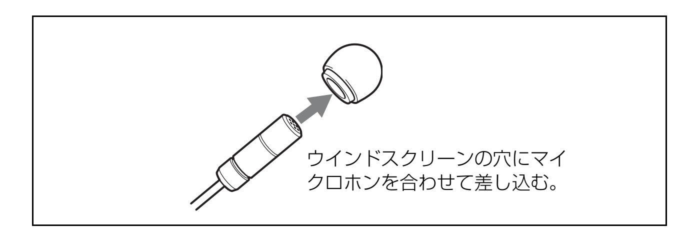
マイクロホンにホルダークリップを取り付ける



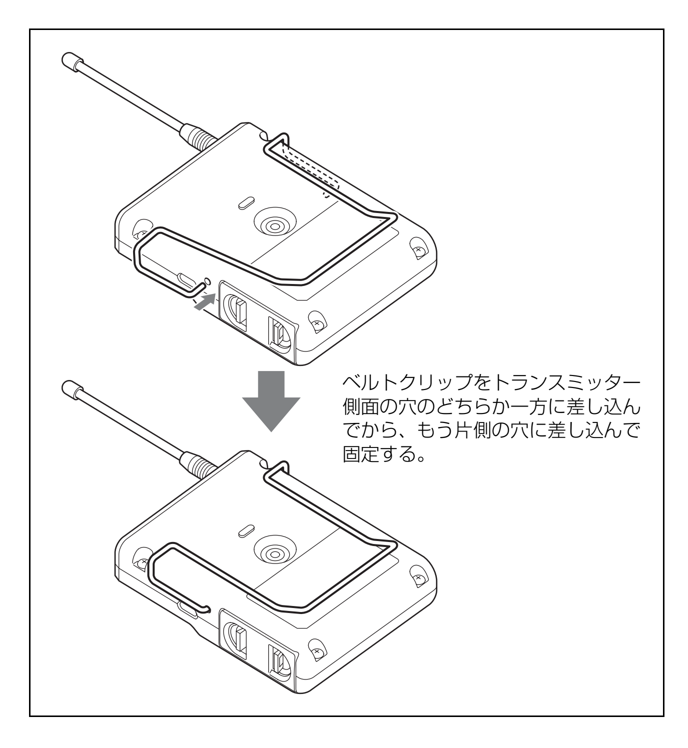
マイクロホンのケーブルをまとめるには



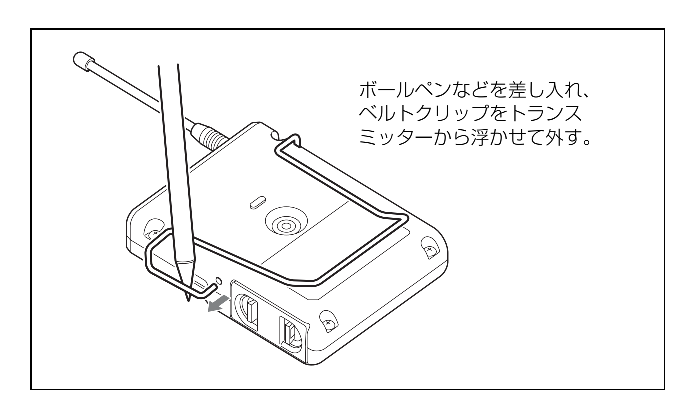
マイクロホンにウインドスクリーンを取り付ける



ベルトクリップを取り付ける

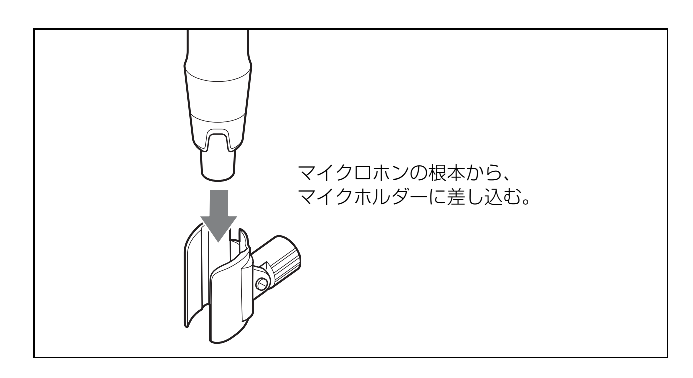


ベルトクリップを外すには



ハンドヘルドマイクロホン（UTX-M03）への付属品取り付け

マイクホルダーを取り付ける



マイクロホンユニットを交換する

マイクロホンユニットを取り外す

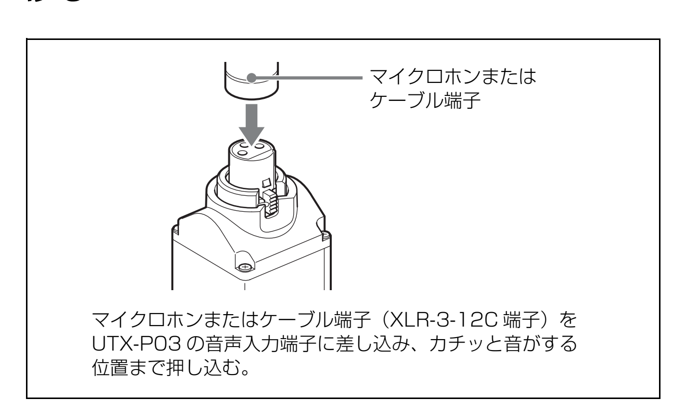


マイクロホンユニットを取り付ける

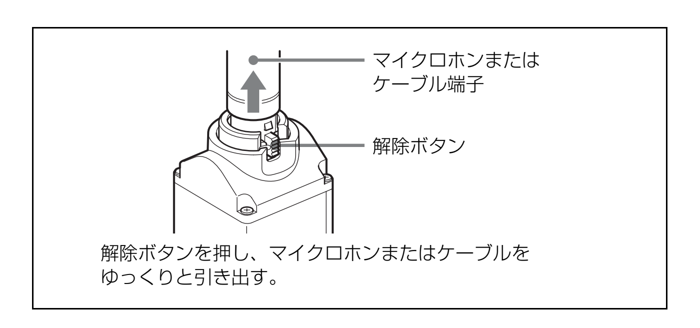
マイクロホンユニットを取り外し時と反対に回して、しっかりマイクロホン本体に取り付けます。

プラグオントランスミッター（UTX-P03）への外部機器の取り付け

マイクロホンまたはケーブル端子を取り付ける



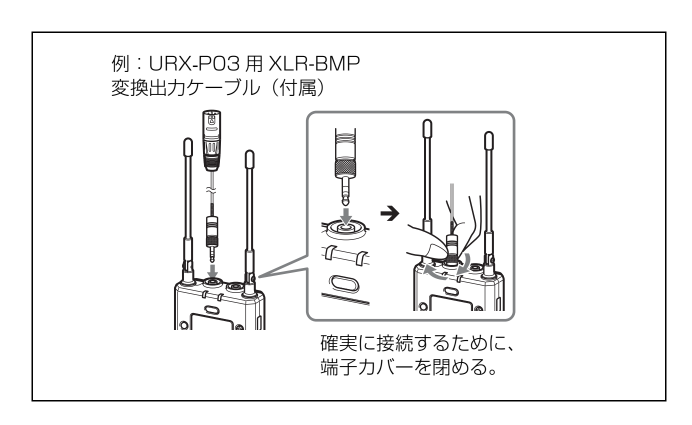
マイクロホンまたはケーブル端子を取り外す



解除ボタンを押し、マイクロホンまたはケーブルをゆっくりと引き出す。

ポータブルダイバーシティーチューナー（URX-P03）への付属品取り付け

OUTPUT 端子に付属の変換ケーブルを接続する



確実に接続するために、端子カバーを閉める。

ベルトクリップを取り付ける

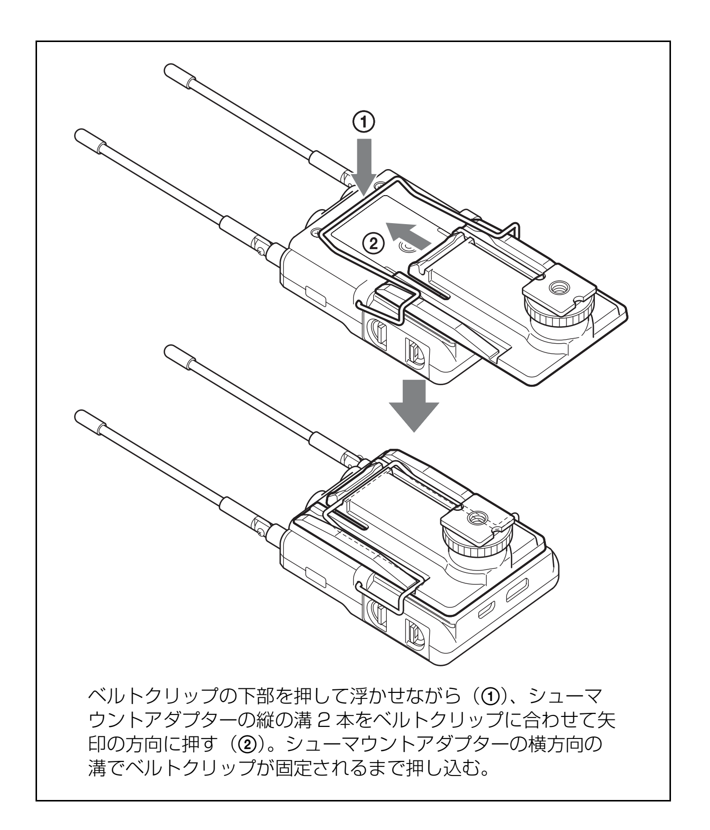
◆「ベルトクリップを取り付ける」（15 ページ）を参照してください。

シューマウントアダプターを取り付ける

あらかじめベルトクリップを取り付けておいてください（15 ページ）。

ご注意

シューマウントアダプターを取り付ける場合は、ベルトクリップの向きを上下逆さにして取り付けてください。

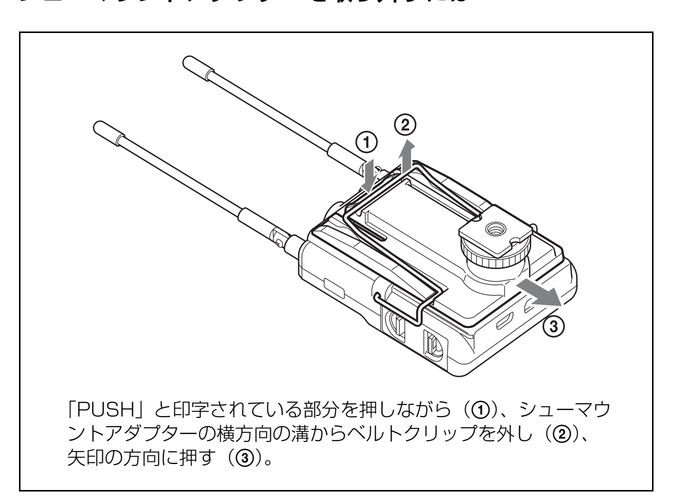


ベルトクリップの下部を押して浮かせながら（①）、シューマウントアダプターの縦の溝 2 本をベルトクリップに合わせて矢印の方向に押す（②）。シューマウントアダプターの横方向の溝でベルトクリップが固定されるまで押し込む。

ご注意

カムコーダーに取り付ける場合は、URX-P03 のアンテナが画面に映り込むのを防ぐため、アンテナを折り曲げて使用してください。

シューマウントアダプターを取り外すには



「PUSH」と印字されている部分を押しながら（①）、シューマウントアダプターの横方向の溝からベルトクリップを外し（②）、矢印の方向に押す（③）。

操作

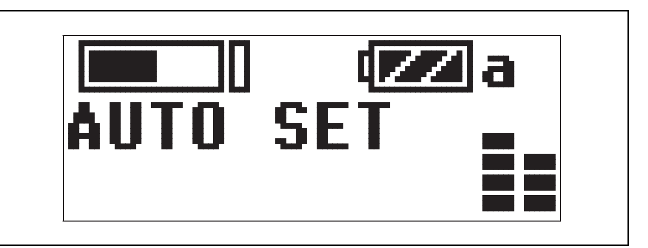
この操作の対象：UWP-D シリーズのすべての機器（UTX-B03/M03/P03 および URX-P03）

1 必要に応じて、受信機の接続をする。

◆ 接続例について詳しくは、「システム構成例」（28 ページ）をご覧ください。

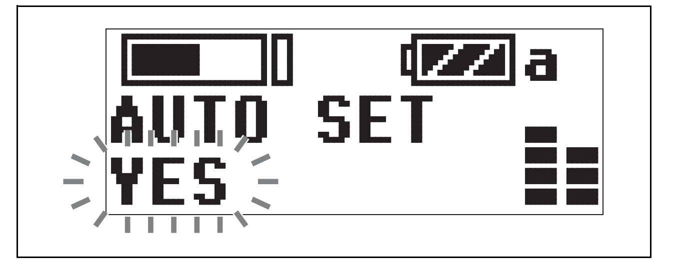
2 受信機の POWER ボタンを 1 秒以上長押しして、電源を入れる。

3 受信機の＋または－ボタンを使って AUTO SET 画面を表示させる。



4 受信機の SET ボタンを 1 秒以上長押しする。

「YES」表示が点滅します。



5 受信機の SET ボタンを押す。

クリアチャンネルスキャンがスタートし、空いているチャンネルを探します。
クリアチャンネルスキャンが完了すると、雑音や妨害電波の影響が最も少ないチャンネルに設定されます。
チャンネルが設定されると、自動的に赤外線送信がスタートします。

ご注意

電源を入れるとノイズが発生する場合がありますので、受信機に接続した機器の音声入力レベルを絞ってから電源を入れてください。

6 送信機のSETボタンを押しながらPOWER/MUTINGボタンを 1 秒以上長押しして、電源を入れる。

7 受信機の赤外線送信ポートと、送信機の赤外線受光部を近づける。

受信機で設定したチャンネル情報が送信機へ送られ、送信機のディスプレイに周波数を変更するか確認するメッセージが表示されます。



8 送信機の＋または－ボタンを使って YES を選択し、SET ボタンを押す。

送信チャンネルが設定されます。

ご注意

- 手順 **5** の受信機からの赤外線送信は、約 10 秒間行われます。10 秒以内に手順 **6**、**7** の操作を行ってください。
10 秒を超えてしまった場合は、受信機の SYNC メニューから再度赤外線送信ができます。
- 送信機と受信機は、約 20 cm 以内に近づけてください。
- 送信機のディスプレイに確認メッセージが表示されてから何も操作せずに約 5 秒間経つと、チャンネル変更が行われず、元の状態に戻ります。
- 赤外線を利用した通信のため、周囲の環境によっては正常に通信できない場合があります。そのときは受信機の SYNC メニューから、再度設定してください。

雑音が発生するときは

設置場所によっては、外来雑音や妨害電波などの影響で雑音が発生し、使用できないチャンネルが生じることがあります。このような場合は、使用チャンネルを設定するときに、送信機の電源を OFF にしたまま受信機のチャンネルを切り換え、RF インジケーターが点灯していないチャンネル（雑音や妨害電波の影響を受けていないチャンネル）を選択して使用してください。送信機も同じチャンネルに設定してください。

ご注意

混信や雑音を防ぐため、次の点に注意してください。
- 同じチャンネルに設定した送信機を同時に2本以上使わないでください。
- UWP-D シリーズを同時に 2 組以上使用する場合は、同一グループ内の互いに異なるチャンネルにそれぞれ設定してください。
- 送信機と受信機のアンテナは、互いに 3 m 以上離して使うことをおすすめします。
- 2 組以上の UWP-D シリーズで異なるチャンネルグループを使用する場合は、仕切りや障害物がなく見通せる広い空間では、システム間の距離を 100 m 以上離してください（距離は使用環境により異なります）。

受信機の設定

メニュー構成と操作方法

この操作の対象：ポータブルダイバーシティーチューナー（URX-P03）

メニューの表示モードには 2 種類あり、用途に応じて使い分けることができます。

シンプルモード

受信および音声出力に必要な基本設定のみが表示されるモードです。
MENU MODE（メニュー表示モード）を SIMPLE に設定すると、シンプルモードでの表示となります。

設定メニューの種類

- GP/CH（グループ／チャンネル）選択
- PHONES（モニター音量）設定
- AUTO SET（自動チャンネル設定）機能
- BAND（周波数帯域）選択（日本国内向けモデルおよび韓国向けモデルには、このメニューはありません）
- CLR SCAN（クリアチャンネルスキャン）機能
- OUT LEVEL（オーディオ出力レベル）設定
- SYNC（赤外線送信）機能
- TIME（累積使用時間）表示
- MENU MODE（メニュー表示モード）設定

拡張モード

すべての設定メニューが表示されるモードです。
MENU MODE（メニュー表示モード）を ADVANCED に設定すると、拡張モードでの表示となります。

ご注意

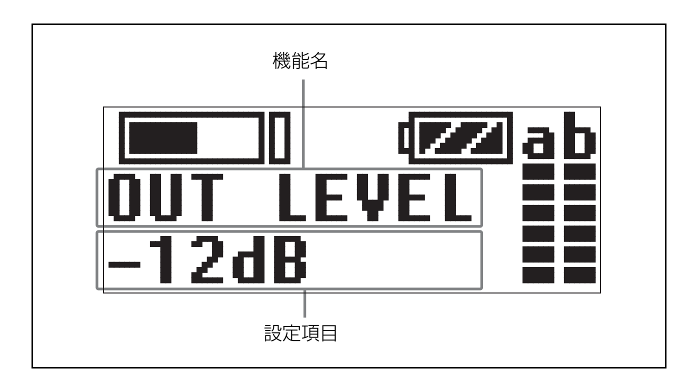
シンプルモードで使用する場合でも、拡張モードで最後に設定した内容が反映されます。

設定メニューの種類

- GP/CH（グループ／チャンネル）選択
- PHONES（モニター音量）設定
- AUTO SET（自動チャンネル設定）機能
- BAND（周波数帯域）選択（日本国内向けモデルおよび韓国向けモデルには、このメニューはありません）
- CLR SCAN（クリアチャンネルスキャン）機能
- OUT LEVEL（オーディオ出力レベル）設定
- SYNC（赤外線送信）機能
- TIME（累積使用時間）表示
- MENU MODE（メニュー表示モード）設定
- COMPANDER（コンパンダーモード）設定
- PWR SOURCE（外部電源選択）設定
- ACT SCAN（アクティブチャンネルスキャン）機能
- PWR LOCK（POWER ボタンロック）機能
- BATTERY（電池の種類）設定
- CONTRAST（ディスプレイ文字コントラスト）設定
- RESET（工場出荷設定）機能
- VERSION（ソフトウェアバージョン）表示

メニューの基本操作

メニューの基本的な操作は、シンプルモードと拡張モードで共通です。



1 ＋または－ボタンを押して、設定したい機能画面を表示させる。

2 設定項目が点滅するまで SET ボタンを長押しする。

3 ＋または－ボタンを押して、設定を変更する。

4 SET ボタンを押して決定する。

ご注意

何も操作せずに 5 秒経過すると、バックライトが消灯します。何かボタンを押すと、再度バックライトが点灯します。

受信チャンネルを設定する

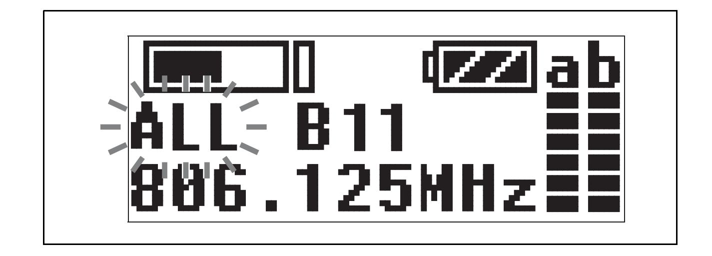
この操作の対象：ポータブルダイバーシティーチューナー（URX-P03）

選択可能なチャンネルグループとチャンネルについては、CD-ROM に収録されている「周波数リスト」を参照してください。

1 ＋または－ボタンを使って GP/CH メニューを表示させる。

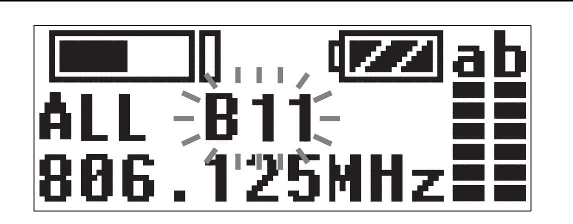
2 SET ボタンを 1 秒以上長押しする。

チャンネルグループ表示が点滅します。



3 ＋または－ボタンを押して、希望のグループ名を選択し、SET ボタンを押す。

チャンネルグループが設定され、チャンネル番号表示が点滅します。



4 ＋または－ボタンを押して、希望のチャンネル番号を選択し、SET ボタンを押す。

点滅表示が終了し、希望のチャンネルに設定されます。

ご注意

- チャンネルグループ表示またはチャンネル番号表示の点滅中に、10 秒間どのボタンも押さないと、点滅時の設定値で保存されます。この動作は、ほかの項目を設定する場合も同じです。
- 周波数表示は、チャンネル番号に応じて表示が変わります。
- 受信チャンネルの設定中でも、受信はできます。
- 設定中に電池を抜かないでください。抜けてしまった場合は、電池を入れ直し、設定の手順を最初から行ってください。
- 同一システム内の送信機と受信機は同じチャンネルに設定してください。

グループ内の空きチャンネルを検索する（クリアチャンネルスキャン）

この操作の対象：ポータブルダイバーシティーチューナー（URX-P03）

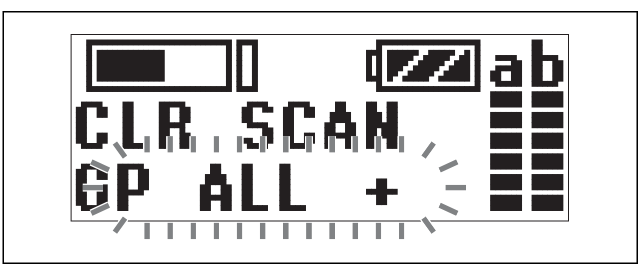
設定されているチャンネルグループ内の空きチャンネルを検索することができます。
以下の操作を行う前に、あらかじめチャンネルグループを設定しておいてください。

◆ 詳しくは「受信チャンネルを設定する」（18 ページ）をご覧ください。

1 ＋または－ボタンを押して、CLR SCAN メニューを表示させる。

2 SET ボタンを 1 秒以上長押しする。

チャンネルグループ表示と、＋表示が点滅するまで長押ししてください。



3 ＋ボタンを押す。

設定されているチャンネルグループの中で、使用可能な空きチャンネルを検索します。空きチャンネルが見つかると、最初の空きチャンネルの番号が点滅します。

次の空きチャンネルを表示させるには
＋ボタンを押します。

検索をキャンセルするには
－ボタンを押します。CLR SCAN メニュー画面に戻ります。

4 希望のチャンネル番号が点滅したら、SET ボタンを押す。

空きチャンネルの検索が終了し、表示されているチャンネルが確定します。
チャンネルを確定させてから約 10 秒間、赤外線送信ポートから設定を送信している状態になります。この間に、電源が ON になっている送信機の赤外線受光部を近づけると、受信機のチャンネル設定を送信機へ送ることができます。

電源を入れたときに自動的にチャンネルスキャンを行うには

受信機の電源が OFF のときに、SET ボタンを押しながら POWER ボタンを 1 秒以上長押しして電源を ON にすると、自動的にクリアチャンネルスキャンが行われます。

グループ内の使用チャンネルを検索する（アクティブチャンネルスキャン）

この操作の対象：ポータブルダイバーシティーチューナー（URX-P03）

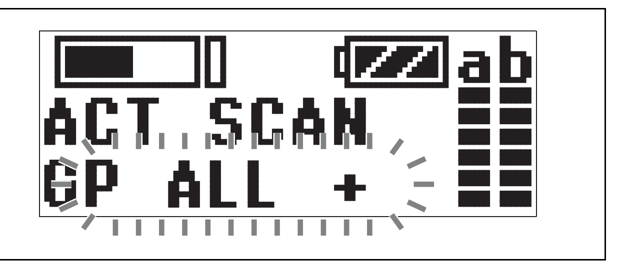
設定されているチャンネルグループ内で、すでに使用しているチャンネルを検索することができます。複数の受信機を、1 つの送信機と組み合わせて同時に使う際に便利です。以下の操作を行う前に、あらかじめチャンネルグループを設定しておいてください。

◆ 詳しくは「受信チャンネルを設定する」（18 ページ）をご覧ください。

1 ＋または－ボタンを押して、ACT SCAN メニューを表示させる。

2 SET ボタンを 1 秒以上長押しする。

チャンネルグループ表示と、＋表示が点滅するまで長押ししてください。



3 ＋ボタンを押す。

設定されているチャンネルグループの中で、すでに使用しているチャンネルを検索します。使用チャンネルが見つかると、最初の使用チャンネルの番号が点滅します。

次の使用チャンネルを表示させるには
＋ボタンを押します。

検索をキャンセルするには
－ボタンを押します。ACT SCAN メニュー画面に戻ります。

4 希望のチャンネル番号が点滅したら、SET ボタンを押す。

使用チャンネルの検索が終了し、表示されているチャンネルが確定します。

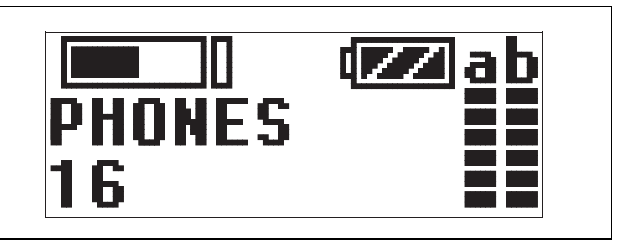
モニター音量を調節する

この操作の対象：ポータブルダイバーシティーチューナー（URX-P03）

モニター音量は、1 ～ 16 の範囲で設定できます。

1 ＋または－ボタンを押して、PHONES メニューを表示させる。

現在のモニター音量のレベルが表示されます。



2 SET ボタンを 1 秒以上長押しする。

モニター音量レベルが点滅するまで長押ししてください。

3 ＋または－ボタンを押して希望のモニター音量レベルに設定し、SET ボタンを押す。

設定値が記憶されます。設定値は、電源を切っても保持されます。

設定メニュー

この操作の対象：ポータブルダイバーシティーチューナー（URX-P03）

ここでは、各機能と変更項目を説明します。
下線表記は工場出荷時の設定です。

グループ／チャンネルを選択する（GP/CH）

工場出荷時の設定は、お使いのモデルにより異なります。

◆ 詳しくは「受信チャンネルを設定する」（18 ページ）をご覧ください。

モニター音量を調節する（PHONES）

ヘッドホンのモニター音量を調節します。
工場出荷時の設定は 12 です。

◆ 詳しくは「モニター音量を調節する」（20 ページ）をご覧ください。

自動で空きチャンネルを設定する（AUTO SET）

空きチャンネルを検索後、自動的にチャンネルを設定し、送信機へ赤外線送信を行います。

◆ 詳しくは「操作」（17 ページ）をご覧ください。

周波数帯域を選択する（BAND）

受信周波数帯域を選択します。

ご注意

日本国内向けモデルおよび韓国向けモデルには、このメニューはありません。これらのモデルでは、周波数帯域は選択できません。

◆ 各周波数帯域に含まれるグループとチャンネルについて、詳しくは CD-ROM に収録されている周波数リストをご覧ください。

空きチャンネルを探して選択する（CLR SCAN）

空きチャンネルを検索します。

◆ 詳しくは「グループ内の空きチャンネルを検索する（クリアチャンネルスキャン）」（19 ページ）をご覧ください。

オーディオ出力レベルを設定する（OUT LEVEL）

音声の出力レベルを設定します。－ 12 dB から＋ 12 dB まで、3 dB 刻みで設定できます。工場出荷時の設定は 0 dB です。

ご注意

OUT LEVEL メニューで出力レベルを変更しても、モニター出力レベルは変わりません。モニター出力レベルは別途調節してください。

◆ モニター音量の調節方法について詳しくは、「モニター音量を調節する」（20 ページ）をご覧ください。

赤外線送信を行う（SYNC）

赤外線通信を使って、受信機で設定した周波数およびコンパンダーモードを送信機に送信します。

1 ＋または－ボタンを押して、SYNC メニューを表示させる。

2 SET ボタンを 1 秒以上長押しする。

確認画面に切り替わります。

3 ＋または－ボタンを押して、「YES」を表示させる。

4 送信機の電源を ON にし、受信機の赤外線送信ポートと、送信機の赤外線受光部を近づける。

送信機のディスプレイに、周波数を変更するかを確認するメッセージが表示されます。

5 送信機の＋または－ボタンを使って YES を選択する。

6 送信機の SET ボタンを押す。

送信機の使用周波数およびコンパンダーモードが設定されます。

ご注意

- 赤外線通信時は､受信機と送信機の距離を 20 cm 以内に近づけてください。
- 受信機で赤外線通信を開始してから、10 秒以内に送信機を近づけてください。10 秒経過すると、自動的に赤外線通信を終了し、元のメニュー画面に戻ります。
- 送信機で確認メッセージが表示された後、NO を選択するか、何も操作をしないで約 5 秒経つと、自動的に元のメニュー画面に切り替わり、赤外線受信した内容は設定されません。

累積使用時間を表示する（TIME）

使用時間の目安として、受信機の累積使用時間を表示します。
工場出荷時の設定は、00:00 です。99:99 まで表示が可能です。

時間表示をリセットするには

1 時間表示が点滅するまで SET ボタンを長押しする。

2 －ボタンを押し､「00:00 CLR」が表示された状態で SET ボタンを押す。

「00:00 CLR」が表示された状態で＋ボタンを押すと、時間表示が点滅します。この状態で SET ボタンを押すと、累積使用時間のリセットがキャンセルされます。

メニュー表示モードを設定する（MENU MODE）

メニューの表示モードを設定します。
SIMPLE：基本的な設定のみが表示されるモードです。
ADVANCED：すべての設定が表示されるモードです。

コンパンダーモードを設定する（COMPANDER）

コンパンダーの動作モードを設定します。
UWP-D：UWP-D シリーズ同士の組み合わせで使用できる、高音質モードです。
UWP：ソニー UWP シリーズの送信機と組み合わせて使用できるモードです。

WL800：ソニー 800 シリーズの送信機と組み合わせて使用できるモードです。

ご注意

- この機能は、拡張モード時のみ表示されます。
- コンパンダーモードの設定が異なる組み合わせで使用すると、トーン信号周波数が異なるため、音が出ません。

優先的に使用する電源を選択する（PWR SOURCE）

本体に装着した電池と、USB 端子に接続した USB ポータブル電源や外部接続用端子に接続したアクセサリーとの、どちらから優先的に電源供給するかを設定します。

BATT -> EXT：本体に装着した電池を優先的に使用します。
EXT -> BATT：USB 端子または外部接続用端子から供給される電源を優先的に使用します。
BATT ONLY：本体に装着した電池を使用し、残量がなくなっても USB 端子や外部接続端子から供給される電源には切り替わりません。

ご注意

BATT -> EXT および EXT -> BATT に設定している場合は、優先的に使用している電源が切れると、自動的にもう一方からの電源供給に切り替わります。そのため、電源がひとつだけ接続されている場合は、PWR SOURCE の設定に関わらず接続されている電源から供給されます。なお、供給される電源が切り替わる際に音切れが発生することがあります。

すでに使用されているチャンネルに設定する（ACT SCAN）

すでに使用されているチャンネルを検索します。複数の受信機を、1 つの送信機と組み合わせて同時に使う際に便利です。

ご注意

この機能は、拡張モード時のみ表示されます。

◆ 詳しくは「グループ内の使用チャンネルを検索する（アクティブチャンネルスキャン）」（20 ページ）をご覧ください。

POWER ボタンをロックする（PWR LOCK）

受信中に電源を OFF にしてしまうなどの誤操作を防ぐため、POWER ボタンをロックすることができます。

UNLOCK：POWER ボタンを長押しすると、電源の ON/OFF ができます。
LOCK：POWER ボタンを長押ししても、電源の OFF ができません。

ロック状態を解除するには

ロック状態を解除するには PWR LOCK メニューで UNLOCK に設定するか、以下の操作を行ってください。

1 LOCK に設定された状態で、POWER ボタンを長押しする。

ロック状態を解除するかを確認するメッセージが表示されます。

2 ＋または－ボタンを使って YES を選択し、SET ボタンを押す。

ロック状態が解除されます。

ご注意

- この機能は、拡張モード時のみ表示されます。
- 拡張モードで LOCK に設定し、その後シンプルモードに変更しても、POWER ボタンのロック状態は変わりません。
- LOCK に設定された状態で電池を引き抜き、再度装着した場合には自動的に電源が ON になりますが、POWER ボタンのロック状態は変わりません。

電池の種類を設定する（BATTERY）

使用している電池の種類に合わせて設定しておくと、より正確に電池残量を表示できます。

TYPE1：アルカリ単 3 形乾電池をお使いになるときの推奨設定です。新品のソニーアルカリ単 3 形乾電池の特性を基準に残量を表示します。
TYPE2：充電式ニッケル水素電池をお使いになるときの推奨設定です。
TYPE3：リチウム電池をお使いになるときの推奨設定です。

ご注意

- この機能は、拡張モード時のみ表示されます。
- 電池の特性は、電池の種類や使用環境などによって変わります。ご使用になる電池の特性をあらかじめご理解のうえ、使用することをおすすめします。

表示の濃さを設定する（CONTRAST）

ディスプレイに表示されている文字やアイコンの濃さを、1 ～ 10 の範囲で調整できます。
設定できる値は以下のとおりです。
（淡）1 2 3 4 5 6 7 8 9 10（濃）

ご注意

この機能は、拡張モード時のみ表示されます。

工場出荷設定に戻す（RESET）

すべての設定を工場出荷時の設定に戻します。
SET ボタンを長押しすると、工場出荷設定に戻すことを確認するメッセージが表示されます。+または－ボタンを押して YES を選択し、SET ボタンを押すと、受信機の設定が工場出荷設定に戻ります。

ご注意

- この機能は、拡張モード時のみ表示されます。
- リセット時には、オーディオ出力レベルやモニター出力レベルも工場出荷設定に戻ります。接続機器やヘッドホンの音量が急激に変わることがありますので、充分にご注意ください。

ソフトウェアバージョンを表示する（VERSION）

受信機のソフトウェアバージョンを表示します。

ご注意

この機能は、拡張モード時のみ表示されます。

送信機の設定

メニュー構成と操作方法

この操作の対象：すべての送信機（UTX-B03/M03/P03）

メニューの表示モードには 3 種類あり、用途に応じて使い分けることができます。

シンプルモード

音声の送信に必要な基本設定のみが表示されるモードです。
MENU MODE（メニュー表示モード）を SIMPLE に設定すると、シンプルモードでの表示となります。

設定メニューの種類

- GP/CH（グループ／チャンネル）選択
- BAND（周波数帯域）選択（日本国内向けモデルおよび韓国向けモデルには、このメニューはありません）
- RF POWER（RF 送信出力レベル）選択
- ATT（アッテネーター）設定
- LCF（ローカットフィルター）設定
- IN LEVEL（オーディオ入力レベル）選択（UTX-B03/P03 のみ）
- +48V（+48 V 電源）設定（UTX-P03 のみ）
- TIME（累積使用時間）表示
- MENU MODE（メニュー表示モード）設定

ご注意

以下の設定メニューは、送信中は変更できません。送信停止モードで設定してください。
- GP/CH（グループ／チャンネル）選択

また、以下の設定メニューは送信中は表示されず、変更できません。送信停止モードで設定してください。
- BAND（周波数帯域）選択（日本国内向けモデルおよび韓国向けモデルには、このメニューはありません）
- RF POWER（RF 送信出力レベル）選択

拡張モード

すべての設定メニューが表示されるモードです。
MENU MODE（メニュー表示モード）を ADVANCED に設定すると、拡張モードでの表示となります。

ご注意

シンプルモードで使用する場合でも、拡張モードで最後に設定した内容が反映されます。

設定メニューの種類

- GP/CH（グループ／チャンネル）選択
- BAND（周波数帯域）選択（日本国内向けモデルおよび韓国向けモデルには、このメニューはありません）
- RF POWER（RF 送信出力レベル）選択

- ATT（アッテネーター）設定
- LCF（ローカットフィルター）設定
- IN LEVEL（オーディオ入力レベル）選択（UTX-B03/P03 のみ）
- +48V（+48 V 電源）設定（UTX-P03 のみ）
- TIME（累積使用時間）表示
- MENU MODE（メニュー表示モード）設定
- COMPANDER（コンパンダーモード）設定
- PWR LOCK（POWER ボタンロック）機能
- MUTING（ミューティング機能）設定
- PHASE（位相切り換え）設定（UTX-B03 のみ）
- BATTERY（電池の種類）設定
- CONTRAST（ディスプレイ文字コントラスト）設定
- RESET（工場出荷設定）機能
- VERSION（ソフトウェアバージョン）表示

ご注意

以下の設定メニューは、送信中は変更できません。送信停止モードで設定してください。
- GP/CH（グループ／チャンネル）選択

また、以下の設定メニューは送信中は表示されず、変更できません。送信停止モードで設定してください。
- BAND（周波数帯域）選択（日本国内向けモデルおよび韓国向けモデルには、このメニューはありません）
- RF POWER（RF 送信出力レベル）選択

送信停止モード

電波の送信を停止した状態で、設定を変更できるモードです。

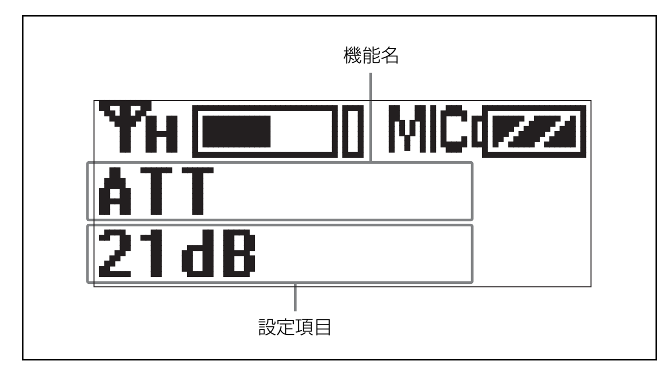
チャンネル設定の際など、意図しない電波を発射してほかの無線に妨害を与えないようにするには、このモードを使用します。

電源 OFF の状態から、SET ボタンを押しながら POWER/MUTING ボタンを 1 秒以上長押しして電源を ON にすると、送信停止モードでの表示となります。

以下の設定メニューは、送信停止モードでのみ変更できます。
- GP/CH（グループ／チャンネル）選択
- BAND（周波数帯域）選択（日本国内向けモデルおよび韓国向けモデルには、このメニューはありません）
- RF POWER（RF 送信出力レベル）選択
- RESET（工場出荷設定）機能

メニューの基本操作

メニューの基本的な操作は、シンプルモード、拡張モードおよび送信停止モードで共通です。



1. ＋または－ボタンを押して、設定したい機能画面を表示させる。
2. 設定項目が点滅するまで SET ボタンを長押しする。
3. ＋または－ボタンを押して、設定を変更する。
4. SET ボタンを押して決定する。

ご注意

何も操作せずに 5 秒経過すると、バックライトが消灯します。何かボタンを押すと、再度バックライトが点灯します。

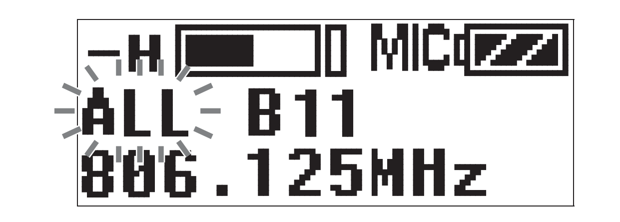
送信チャンネルを設定する

この操作の対象：すべての送信機（UTX-B03/M03/P03）

選択可能なチャンネルグループとチャンネルについては、CD-ROM に収録されている「周波数リスト」を参照してください。

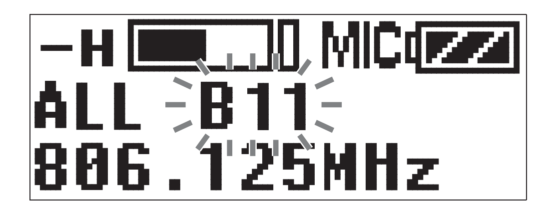
1. SETボタンを押しながらPOWER/MUTINGボタンを長押しし、電源を ON にする。
2. ＋または－ボタンを使って GP/CH メニューを表示させる。
3. SET ボタンを 1 秒以上長押しする。

   チャンネルグループ表示が点滅するまで長押ししてください。



4 ＋または－ボタンを押して、希望のグループ名を選択し、SET ボタンを押す。

チャンネルグループが設定され、チャンネル番号表示が点滅します。



5 ＋または－ボタンを押して、希望のチャンネル番号を選択し、SET ボタンを押す。

点滅表示が終了し、希望のチャンネルに設定されます。

ご注意

- チャンネルグループ表示またはチャンネル番号表示の点滅中に、10 秒間どのボタンも押さないと、点滅時の設定値で保存されます。この動作は、ほかの項目を設定する場合も同じです。
- 周波数表示は、チャンネル番号に応じて表示が変わります。
- 設定中には、電池を抜かないでください。抜けてしまった場合は、電池を入れ直し、設定の手順を最初から行ってください。
- 同一システム内の送信機と受信機は同じチャンネルに設定してください。

設定メニュー

この操作の対象：すべての送信機（UTX-B03/M03/P03）

ここでは、各機能と変更項目を説明します。
下線表記は工場出荷時の設定です。

グループ／チャンネルを選択する（GP/CH）

工場出荷時の設定は、お使いのモデルにより異なります。

◆ 詳しくは「送信チャンネルを設定する」（24 ページ）をご覧ください。

ご注意

この機能は、送信停止モード時のみ変更できます。

周波数帯域を選択する（BAND）

送信周波数帯域を選択します。

ご注意

- この機能は、送信停止モード時のみ変更できます。
- 日本国内向けモデルおよび韓国向けモデルには、このメニューはありません。これらのモデルでは、周波数帯域は選択できません。

◆ 各周波数帯域に含まれるグループとチャンネルについて、詳しくは CD-ROM に収録されている周波数リストをご覧ください。

送信出力のレベルを設定する（RF POWER）

送信する電波の強さを HIGH または LOW に設定します。それぞれの送信出力は、お使いのモデルによって異なります。

ご注意

この機能は、送信停止モード時のみ変更できます。

音声入力のアッテネーターレベルを調整する（ATT）

音声入力がひずまないように、アッテネーターレベルを 3 dB 刻みで設定できます。
工場出荷時の設定は、UTX-B03 は 9 dB、UTX-M03/P03 は 0 dB です。

ご注意

- UTX-B03/P03 で、IN LEVEL を LINE に設定している場合は、「---」と表示され、アッテネーターレベルの設定はできません（0 dB 固定）。
- アッテネーターレベルを大きくすると、雑音が増えることがあります。ラベリアマイクロホンを胸元に付けて使用する場合は、できるだけ 0 dB に設定してください。

ローカットフィルターを設定する（LCF）

風による雑音を低減するため、ローカットフィルターを設定できます。
カットオフ周波数を OFF/LOW/MID/HIGH の 4 段階に設定できます。
OFF：フィルターなし
LOW：カットオフ周波数 100 Hz
MID：カットオフ周波数 150 Hz
HIGH：カットオフ周波数 200 Hz

オーディオ入力レベルを切り換える（IN LEVEL）（UTX-B03/P03 のみ）

オーディオ入力機器に応じて、入力レベルを設定します。
MIC/LINE の切り換えが可能です。工場出荷時の設定は、MIC です。

ご注意

オーディオミキサーなどからの音声の入力中に、この機能を「MIC」に切り換えないでください。過大なレベルの音声が入力されると、音声のひずみや再生・録音機器の故障の原因となることがあります。

マイクロホンへの電源供給を設定する（+48V）（UTX-P03 のみ）

外部電源が必要なマイクロホンを使用している場合に、送信機から電源を供給できます。
ON に設定すると、接続したマイクロホンに電源が供給され、+48V インジケーターが点灯します。
工場出荷時の設定は、OFF です。

累積使用時間を表示する（TIME）

使用時間の目安として、送信機の累積使用時間を表示します。
工場出荷時の設定は、00:00 です。99:99 まで表示が可能です。

時間表示をリセットするには

1 時間表示が点滅するまで SET ボタンを長押しする。

2 －ボタンを押し、「00:00 CLR」が表示された状態で SET ボタンを押す。

「00:00 CLR」が表示された状態で＋ボタンを押すと、時間表示が点滅します。この状態で SET ボタンを押すと、累積使用時間のリセットがキャンセルされます。

メニュー表示モードを設定する（MENU MODE）

メニューの表示モードを設定します。
SIMPLE：基本的な設定のみが表示されるモードです。
ADVANCED：すべての設定が表示されるモードです。

コンパンダーモードを設定する（COMPANDER）

コンパンダーの動作モードを設定します。
UWP-D：UWP-D シリーズ同士の組み合わせで使用できる、高音質モードです。
UWP：ソニー UWP シリーズの受信機と組み合わせて使用できるモードです。
WL800：ソニー 800 シリーズの受信機と組み合わせて使用できるモードです。

ご注意

- この機能は、拡張モード時のみ表示されます。
- コンパンダーモードの設定が異なる組み合わせで使用すると、トーン信号周波数が異なるため、音が出ません。

POWER/MUTING ボタンをロックする（PWR LOCK）

送信中に電源を OFF にしてしまうなどの誤操作を防ぐため、POWER/MUTING ボタンをロックすることができます。
UNLOCK：POWER/MUTING ボタンを長押しすると、電源の ON/OFF ができます。
LOCK：POWER/MUTING ボタンを長押ししても、電源の OFF ができません。

ロック状態を解除するには

ロック状態を解除するには PWR LOCK メニューで UNLOCK に設定するか、以下の操作を行ってください。

1 LOCK に設定された状態で、POWER/MUTING ボタンを長押しする。

ロック状態を解除するかを確認するメッセージが表示されます。

2 ＋または－ボタンを使って YES を選択し、SET ボタンを押す。

電源が OFF になります。

ご注意

- この機能は、拡張モード時のみ表示されます。
- 拡張モードで LOCK に設定し、その後シンプルモードに変更しても、POWER/MUTING ボタンのロック状態は変わりません。
- LOCK に設定された状態で電池を引き抜き、再度装着した場合には自動的に電源が ON になりますが、POWER/MUTING ボタンのロック状態は変わりません。

ミューティング動作を設定する（MUTING）

送信中に POWER/MUTING ボタンを押すと、消音状態となり受信機から音声を出力しないようにできます。
POWER/MUTING ボタンを再度押すと、音声が出力されます。
ENABLE：POWER/MUTING ボタンを押すとミューティングができます。
DISABLE：POWER/MUTING ボタンを押してもミューティングされません。

ご注意

- この機能は、拡張モード時のみ表示されます。
- ミューティング動作時、音声は出力されませんが電波は発射しています。

マイクロホンの位相を切り換える（PHASE）（UTX-B03 のみ）

逆位相で出力されるマイクロホン（付属のラベリアマイクロホンは除く）を接続する際に、位相を切り換えることができます。
NORMAL：位相を反転しません。付属のラベリアマイクロホンを接続するときは、NORMAL に設定します。
INVERT：送信機内部で位相を反転させます。

ご注意

この機能は、拡張モード時のみ表示されます。

電池の種類を設定する（BATTERY）

使用している電池の種類に合わせて設定しておくと、より正確に電池残量を表示できます。

TYPE1：アルカリ単３形乾電池をお使いになるときの推奨設定です。新品のソニーアルカリ単３形乾電池の特性を基準に残量を表示します。
TYPE2：充電式ニッケル水素電池をお使いになるときの推奨設定です。
TYPE3：リチウム電池をお使いになるときの推奨設定です。

ご注意

- この機能は、拡張モード時のみ表示されます。
- 電池の特性は、電池の種類や使用環境などによって変わります。ご使用になる電池の特性をあらかじめご理解のうえ、使用することをおすすめします。

表示の濃さを設定する（CONTRAST）

ディスプレイに表示されている文字やアイコンの濃さを、1 ～ 10 の範囲で調整できます。
設定できる値は以下のとおりです。
（淡）1 2 3 4 5 6 7 8 9 10（濃）

ご注意

この機能は、拡張モード時のみ表示されます。

工場出荷設定に戻す（RESET）

すべての設定を工場出荷時の設定に戻します。
SET ボタンを長押しすると、工場出荷設定に戻すことを確認するメッセージが表示されます。＋または－ボタンを押して YES を選択し、SET ボタンを押すと、送信機の設定が工場出荷設定に戻ります。

ご注意

- この機能は、送信停止モード時のみ使用できます。
- リセット時には、オーディオ入力レベルも工場出荷設定に戻ります。受信機に接続した機器やヘッドホンの音量が急激に変わることがありますので、充分にご注意ください。

ソフトウェアバージョンを表示する（VERSION）

送信機のソフトウェアバージョンを表示します。

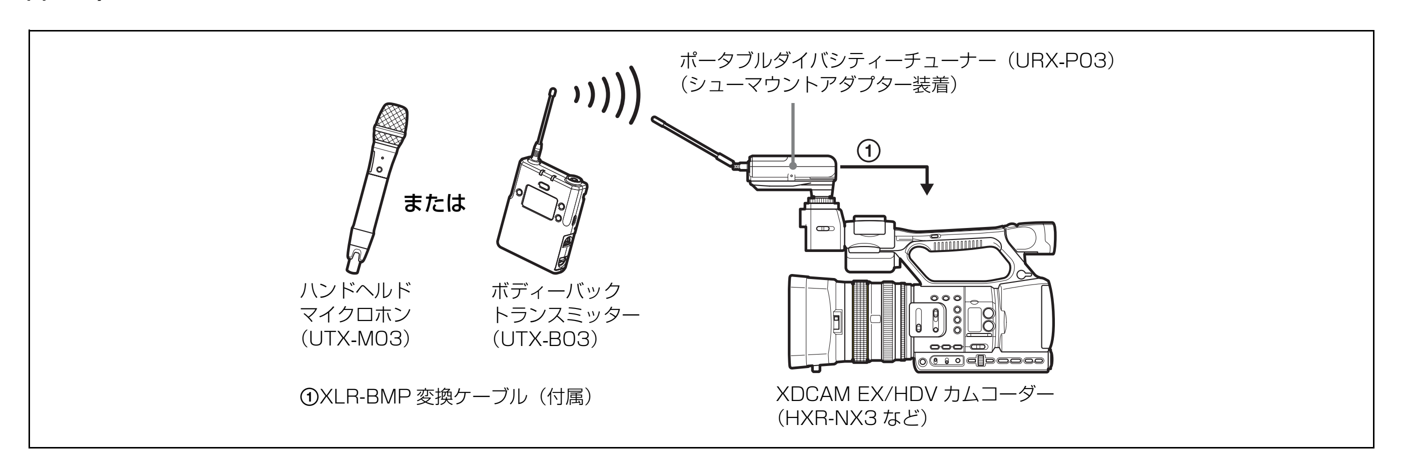
ご注意

この機能は、拡張モード時のみ表示されます。

システム構成例

以下のシステム構成は、UWP-D シリーズの使用例です。

ENG（Electronic News Gathering）または EFP（Electronic Field Production）での使用例（カムコーダーとの組み合わせ）



エラーメッセージ

ディスプレイ部には、通常表示の他に次のようなエラーメッセージが表示されることがあります。

表示	意味	対応
EEP ERROR	バックアップメモリーデータにエラーが発生しました。	お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。
PLL ERROR	PLL シンセサイザー回路に異常があります。	電源を入れ直してみてください。それでも直らないときは、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。
NO TONE	受信機で設定したコンパンダーモードとは異なるトーン信号の電波を受信したため、オーディオ信号出力がミューティングされています。	使用する送信機に合わせて、コンパンダーモードを設定してください「コンパンダーモードを設定する（COMPANDER）」（21 ページ）。 UWP-D シリーズの送信機（UTX-B03、UTX-M03 など）を使用する場合は、送信機と受信機のコンパンダーモードを同じ設定にしてください。

故障かなと思ったら

修理に出す前に、もう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください。

症状	原因	対策
電源が入らない。	電池の ⊕ と ⊖ が逆になっている。	正しい方向に入れ直してください。
	電池が消耗している。	新しい乾電池に交換してください。
	電池端子が汚れている。	⊕ 端子、⊖ 端子を綿棒でクリーニングしてください。
	PWR SOURCE が BATT ONLY に設定されているのに、電池が入っていない。[3]	電池を入れるか、PWR SOURCE の設定を変更してください。
電源が切れない。	POWER/MUTING ボタンがロックされている。	PWR LOCK メニューでロック状態を解除してください。
電池がすぐになくなる。	電池が消耗している。	新しい電池に交換してください。
	マンガン乾電池を使用している。	マンガン乾電池の持続時間はアルカリ乾電池に比較して半分以下になりますので、アルカリ乾電池を使用してください。
	寒い環境で使用している。	低温時は、電池寿命が短くなります。
チャンネルの変更ができない。[1]	送信停止モードに入っていない。	いったん電源を OFF にして、SET ボタンを押しながら電源を ON にし、送信停止モードに変更してください。
音が出ない。	送信機と受信機のチャンネルが違っている。	送信機と受信機のチャンネルを合わせてください。
	送信機が電波を送信していないか、送信出力が小さい。	送信機の電源を確認してください。または、送信機と受信機の距離を近づけてください。
	送信機がライン入力に設定されている。[2]	マイク入力に設定してください。
	送信機と受信機のコンパンダーモードが違っている。	送信機と受信機のコンパンダーモードを合わせてください。
	送信機がミューティング状態になっている。[2]	送信機の POWER/MUTING ボタンを押して、ミューティング状態を解除してください。
音が小さい。	送信機のアッテネーターの設定値が大きい。	入力レベルが小さくなっています。送信機のアッテネーターを適正量に設定してください。
	アンプ、ミキサーのボリュームが下がっている。	ボリュームを上げて適正音量にしてください。
	送信機がライン入力に設定されている。[2]	マイク入力に設定してください。
	送信機と受信機のコンパンダーモードが違っている。	送信機と受信機のコンパンダーモードを合わせてください。
音が歪む。	送信機のアッテネーターの設定値が小さい。または 0 である。	音量が過大入力です。音が歪まないように送信機のアッテネーターを設定してください。
	送信機と受信機のチャンネルが違っている。	送信機と受信機のチャンネルを合わせてください。
	モノラルミニジャックのヘッドホンを使用している。[3]	ステレオミニジャックのヘッドホンを使用してください。
音切れ、ノイズが発生する。	送信機と受信機のチャンネルが違っている。	送信機と受信機のチャンネルを合わせてください。
	2 本以上の送信機が同じチャンネルになっている。	同一チャンネルで 2 本以上の送信機は使用できません。付属の CD-ROM に収録されている周波数リストに従って各送信機のチャンネルを設定し直してください。
	チャンネルが同一グループ内の設定になっていない。	本機のチャンネルプランは、2 本以上の送信機を使用する場合、それぞれの送信機が混信しないように設定してあります。使用する送信機を同一グループ内のチャンネルに設定し直してください。
	近接チャンネルで運用している。	2 チャンネル（250 kHz）以上離れたチャンネルを使用してください。
送信機の電源を切っても、受信機の RF インジケーターが点灯している。	妨害電波が出ている。	受信機のチャンネルを RF インジケーターが点灯していないチャンネルに設定するか、クリアチャンネルスキャン機能を使って妨害のないチャンネルに変更してください。次に、送信機を受信機と同じチャンネルに設定してください。2 本以上の送信機を使用している場合は、妨害電波のない他のグループに変更してください。

症状	原因	対策
赤外線送信で、送信機のチャンネルが設定できない。	送信機の赤外線受光部と、受信機の赤外線送信ポートが離れている。	送信機の赤外線受光部と受信機の赤外線送信ポートを約20 cm以内に近づけてください。
	他の機器で赤外線通信を行ったり、直射日光により妨害を受けている。	強い陽射しなどで妨害を受けると、通信距離が短くなることがあります。送信機と受信機をできるだけ近づけてください。

1) ボディーパックトランスミッター（UTX-B03）／ハンドヘルドマイクロホン（UTX-M03）／プラグオントランスミッター（UTX-P03）のみ
2) ボディーパックトランスミッター（UTX-B03）／プラグオントランスミッター（UTX-P03）のみ
3) ポータブルダイバーシティーチューナー（URX-P03）のみ

使用上のご注意

使用・保管場所

- UWP-D シリーズの機器を電力機器（回転機、変圧機、調光器など）に近接して使用すると、磁気誘導を受けることがありますので、できるだけ離して使用してください。
- 電飾などの照明器具により、かなり広範囲の周波数帯域にわたり電波が発生し、妨害を受けることがあります。この場合、受信機のアンテナの位置や送信機の使用位置により妨害が増減しますので、なるべく妨害を受けない位置で使用してください。
- UWP-D シリーズの機器を騒音の多い場所で使用すると、振動が直接本体に伝わり、雑音発生（マイクロホニック）の原因となり、規定の S/N を満足しない場合があります。影響を受けると考えられるものには次のようなものがありますので、充分に注意してください。
  - 回転機、変圧器などの付近
  - 空調機器より発生する騒音、または風を直接受ける場合
  - PA（Public Address）システムのスピーカー付近
  - スタジオなどに設置していて、スタジオの機器をぶつけたり、たたいたり、物を落としたりした場合

  対策として、影響を受ける条件からできるだけ離す、緩衝材を敷くなどしてください。

お手入れ

表面や端子部の汚れは、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。シンナーやベンジン、アルコールなどの薬品類は、表面の仕上げを傷めますので使用しないでください。

電波干渉を防ぐために

使用時に外来雑音や妨害電波などの影響で雑音が発生し、使用できないチャンネルが生じることがあります。このような場合は、電波干渉を防ぐために電波の発射を停止する（電源を切る）か、あるいは周波数の変更（チャンネルの切り換え）を行ってください。

携帯通信機器による電磁波障害を防止するために

携帯電話などの通信機器を本機の近くで使用すると、誤動作を引き起こしたり、音声に影響を与えることがあります。本機の近くでは、携帯通信機器の電源はできるだけ切ってください。

主な仕様

仕様および外観は、改良のため予告なく変更する場合がありますがご了承ください。

- お使いになる前に、必ず動作確認を行ってください。故障その他に伴う営業上の機会損失等は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず、補償はいたしかねますのでご了承ください。
- 本製品を使用したことによるお客様、または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切の責任を負いかねます。
- 諸事情による本製品に関連するサービスの停止、中断について、一切の責任を負いかねます。

送信機（UTX-B03/M03/P03）

送信機共通

発振方式　水晶制御 PLL シンセサイザー

搬送波周波数　806 MHz ～ 810 MHz

RF 出力レベル　10 mW/2 mW（選択可）

プリエンファシス
　50 μs

基準周波数偏移　± 5 kHz（－ 60 dBV、1 kHz 入力時）

ひずみ率　0.9% 未満（－ 60 dBV、1 kHz 入力時）

S/N 比　60 dB 以上

音声遅延　0.35 ミリ秒

トーン信号周波数
　コンパンダーモードを UWP-D に設定時：
　　32.382 kHz
　コンパンダーモードを UWP に設定時：
　　32 kHz
　コンパンダーモードを WL800 に設定時：
　　32.768 kHz

電源電圧　3.0 V DC（単 3 形アルカリ乾電池 2 本）
　5.0 V DC（USB 端子より供給）

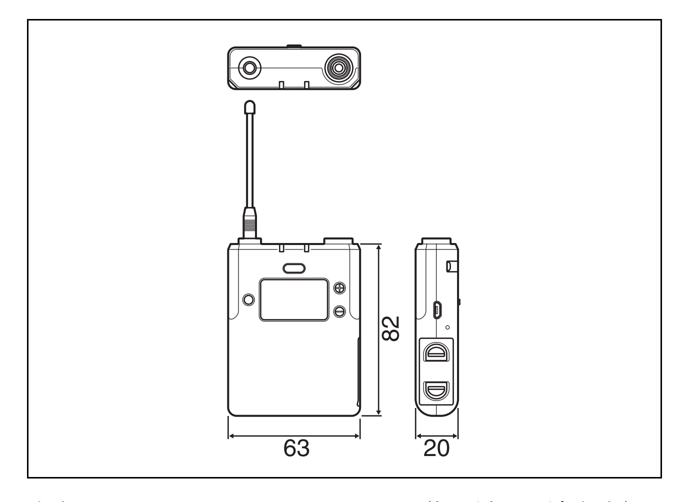
電池持続時間　約 10 時間（ソニーアルカリ乾電池単 3 形（LR6）2 本使用、10 mW 出力、25 ℃）

許容動作温度　0 ℃～ 50 ℃（充電時は 0 ℃～ 35 ℃）

許容保存温度　－ 20 ℃～＋ 55 ℃

ボディーパックトランスミッター（UTX-B03）

アンテナ　波長 1/4 λ ワイヤーアンテナ
音声入力端子　φ3.5 mm ミニジャック
基準音声入力レベル
－ 60 dBV
（MIC 入力、アッテネーター 0 dB）
周波数特性　40 Hz ～ 15 kHz
アッテネーター　0 dB ～ 27 dB（3 dB ステップ）
インジケーター　AUDIO、POWER/MUTING
電池持続時間　約 10 時間（ソニーアルカリ乾電池 単 3 形（LR6）2 本使用、10 mW 出力、25 ℃）
外形図



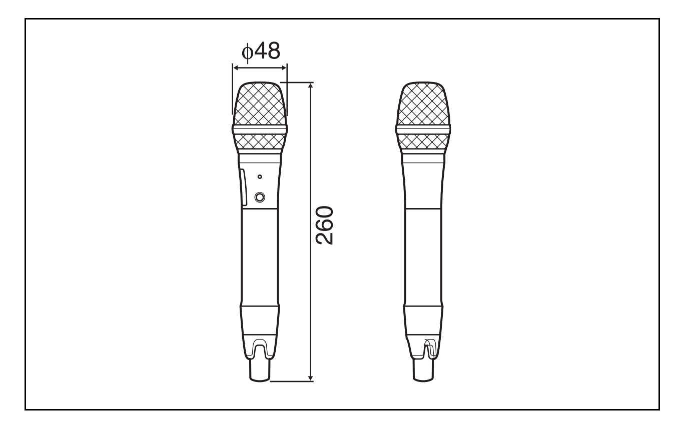
寸法　63 × 82 × 20 mm（幅／高さ／奥行き）（アンテナ含まず）
質量　約 103 g（乾電池含まず）

ラベリアマイクロホン（ECM-V1BMP）

型式　エレクトレットコンデンサー型
周波数特性　40 Hz ～ 20,000 Hz
指向特性　無指向性
正面感度　－ 43.0 dB ± 3 dB（0 dB =1 V/Pa、at 1 kHz）
許容動作温度　0 ℃～ 50 ℃
許容保存温度　－ 20 ℃～＋ 55 ℃
ケーブル長　外径 2.3 mm、2 芯シールドケーブル 1.2 m
外形寸法　φ6.8 × 19.5 mm（ケーブルおよびコネクターを除く）
質量　約 16.2 g

ハンドヘルドマイクロホン（UTX-M03）

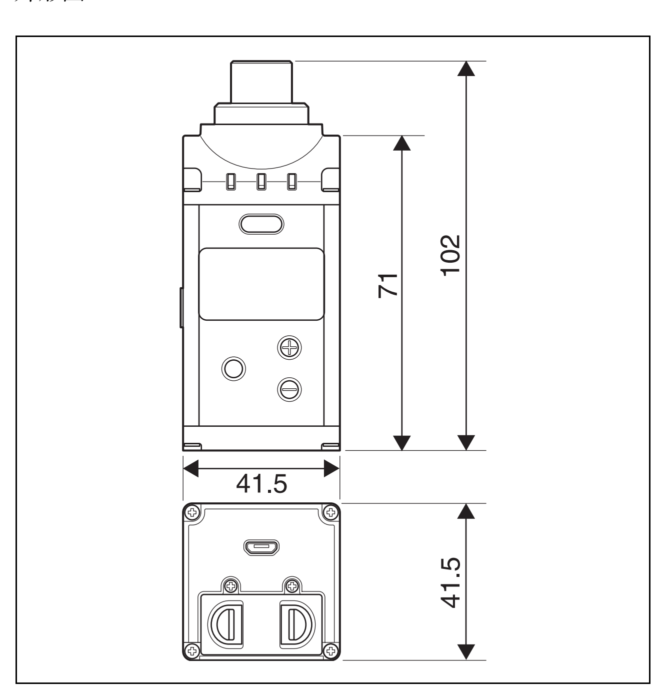
マイクロホンユニット
ダイナミック
指向特性　単一指向
アンテナ　波長 1/4 λ ワイヤーアンテナ
基準音声入力レベル
－ 55 dBV
（MIC 入力、アッテネーター 0 dB）
周波数特性　70 Hz ～ 15 kHz
アッテネーター　0 dB ～ 21 dB（3 dB ステップ）
インジケーター　POWER/MUTING
電池持続時間　約 10 時間（ソニーアルカリ乾電池 単 3 形（LR6）2 本使用、10 mW 出力、25 ℃）
外形図



寸法　φ48 × 260 mm（直径／長さ）
質量　約 260 g（乾電池含まず）

プラグオントランスミッター（UTX-P03）

基準音声入力レベル
－ 60 dBV（アッテネーター 0 dB）
周波数特性　50 Hz ～ 18 kHz
アッテネーター　0 dB ～ 48 dB（3 dB ステップ）
音声入力端子　XLR-3-11C タイプ（凹）
インジケーター　AF/PEAK、POWER/MUTING、+48V
電池持続時間（ソニーアルカリ乾電池 単 3 形（LR6）2 本使用、10 mW 出力、25 ℃）
+48V OFF 時：約 10 時間
+48V ON、ECM-673 接続時：約 7 時間
外形図



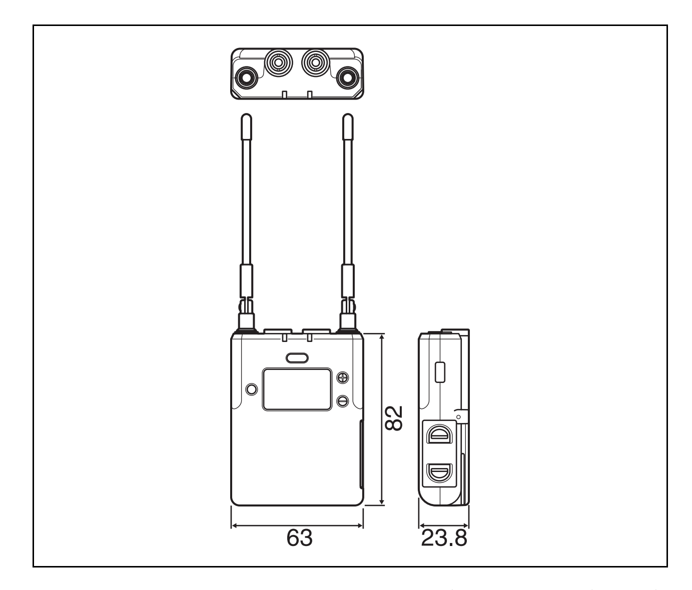
寸法	41.5 × 102 × 41.5 mm（幅／高さ／奥行き） （音声入力端子含む）
質量	約 145 g（乾電池含まず）

受信機

ポータブルダイバーシティーチューナー（URX-P03）

アンテナ	波長 1/4 λ ワイヤーアンテナ（角度調節可）
音声出力レベル	− 60 dBV
音声出力端子	φ 3.5 mm ミニジャック
ヘッドホン出力レベル	5 mW（16 Ω）
受信方式	トゥルーダイバーシティー方式
局部発振	水晶制御 PLL シンセサイザー
受信周波数	806 MHz ～ 810 MHz
S/N 比	60 dB 以上
音声遅延	0.35 ミリ秒
ディエンファシス	50 μs
基準周波数偏移	± 5 kHz
周波数特性	40 Hz ～ 15 kHz
ひずみ率	0.9% 未満（5 kHz 変調）
トーン信号	コンパンダーモードを UWP-D に設定時：32.382 kHz コンパンダーモードを UWP に設定時：32 kHz コンパンダーモードを WL800 に設定時：32.768 kHz
インジケーター	POWER、RF
許容動作温度	0 ℃～ 50 ℃（充電時は 0 ℃～ 35 ℃）
許容保存温度	− 20 ℃～＋ 55 ℃
電源電圧	3.0 V DC（単 3 形アルカリ乾電池 2 本） 5.0 V DC（USB 端子より供給）
電池持続時間	約 6 時間（ソニーアルカリ乾電池単 3 形（LR6）、25 ℃）

外形図



寸法	63 × 82 × 23.8 mm（幅／高さ／ 奥行き） （アンテナ含まず）
質量	約 136 g（乾電池含まず）

お問い合わせは
「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社　　〒108-0075　東京都港区港南1-7-1

http://www.sony.co.jp/